

航技兵教育課程表

教育期		區分	一	般	課	目	專	修	課	目		
一	二											
飛行機技兵	發動機技兵	自動車技兵	旋盤技兵	輪削技兵	仕上技兵	板金技兵	鑄鍛技兵	熔接技兵	電技兵	精器技兵	有線技兵	無線技兵
<p>各專修課目ニ應シ必要ナル左ノ事</p> <p>一 兵器ノ検査、構造、性能、保存及手入ノ概要</p> <p>二 工具、器具及器械ノ用法並ニ其ノ検査、修理及調整ノ要領</p>												
<p>飛行機及プロペラノ分解、組立、修理、調整、検査、整備ニ關スル技能ヲ修得セシム</p> <p>發動機ノ分解、組立、修理、調整、検査、整備ニ關スル技能ヲ修得セシム</p> <p>自動車、飛行機給油機等各種兵器ノ車體及其ノ發動機ノ分解、組立、修理、調整、検査ニ關スル技能ヲ修得セシム</p> <p>運轉検査ノ爲ニハ一部ノモノニ對シ操縱術ヲ修得セシム</p> <p>各種兵器及同部品ノ修理、製作ニ關スル旋盤、穿孔機等ノ機械ニヨル旋削、ねぢ切、穿孔、削等ノ技能ヲ修得セシム</p> <p>各種兵器及同部品ノ修理、製作ニ關スル輪削、齒切、研磨等ノ技能ヲ修得セシム</p> <p>各種兵器及同部品ノ修理、製作ニ關スル鋸削、摺合、部品仕上等ノ技能ヲ修得セシム</p> <p>各種兵器及同部品ノ修理、製作ニ關スル板金作業、銅工作業、鑄造、熱處理等ノ技能ヲ修得セシム</p> <p>各種兵器及同部品ノ修理、製作ニ關スル鑄造、鍛造及熱處理等ノ技能ヲ修得セシム</p> <p>各種兵器及同部品ノ修理、製作ニ關スル鑄造、鍛造、接、電氣熔接等ノ技能ヲ修得セシム</p> <p>電氣器材、器具等ノ分解、組立、修理、調整、鍍金ニ關スル技能ヲ修得セシム</p> <p>精器類ノ分解、組立、修理、調整、検査ニ關スル技能ヲ修得セシム</p> <p>有線電器器材、視聽通信器材ノ分解、組立、修理、調整、検査ニ關スル技能ヲ修得セシム</p> <p>無線電器器材(大動力ノ電燈ヲ除ク)ノ分解、組立、修</p>												

秘

陸密第四〇九號

(甲)

考科表、兵籍、戰時名簿、停年名簿及動員計畫書類等ニ記載スヘキ佐尉官ノ兵種區分ニ關スル
件連

陸軍一般

考科表、兵籍、戰時名簿、停年名簿及動員計畫書類等ニ記載スヘキ佐尉官ノ兵種區分左ノ通定ム

昭和十六年二月十七日

陸軍大臣 東條英機

一 兵科(憲兵ヲ除ク)將校

左記各號ノ所屬ニ從ヒ附表ノ區分ニ依ル

(イ) 昭和十五年九月十四日以前任官ノ現役將校

最後ノ所屬隊(司令部、官衙、學校ヲ含マス)

(ロ) 昭和十五年九月十五日以後任官ノ現役將校

任官直前ノ所屬隊

(ハ) 特別志願將校

採用直後ノ所屬隊但シ採用直後ノ所屬司令部、官衙、學校ナルトキハ(ハ)ニ依ル

(ニ) 幹部候補生、操縱候補生修業期間ニ引續キ召集セラレタル豫備役將校

陸

軍

集合教育終了直前ノ所屬隊

(ホ) 支那事變ノ爲召集セラレタル(ニ)號以外ノ豫備役將校

應召直後ノ所屬隊但シ應召直後ノ所屬司令部、官衙、學校ナルトキハ(ハ)ニ依ル

(ヘ) 支那事變ノ爲召集セラレサル豫備役將校

在職又ハ應召(支那事變前ノ應召トシ勤務演習召集ヲ含ム)最後ノ所屬隊

前項ノ規定ニ依ルノ外必要ニ應シ陸軍大臣ハ特定ノ者ニ他ノ兵種ヲ指定スルコトアルヘシ

二 憲兵及各部將校

陸軍武官等表ノ官種別ニ從ヒ左ノ區分ニ依ル

憲兵、兵技、航技、主計、軍醫、藥劑、齒科、衛生、獸醫、獸醫務、軍樂

三 第一號該當者中舊兵科ヲ有シタル者ニシテ當該兵科ト新兵種ト其ノ稱呼ヲ異ニスル者ニ在リテハ舊兵科ニ括弧ヲ附シテ之ヲ併記(兵科撤廢以前ニ於テ兵科ヲ轉シタル者ニ在リテハ其ノ轉科前ノ兵科ヲモ)スルモノトス爾後兵種ヲ轉シタル者(航空、憲兵又ハ各部ニ轉シタル者ヲ除ク)ニ關シ亦同シ

註 現役將校及特別志願將校ノ兵種及特業ハ昭和十六年以降編纂ノ將校停年名簿ニ之ヲ登載ス

集合教育終了直前ノ所屬隊

(ホ) 支那事變ノ爲召集セラレタル(ニ)號以外ノ豫備役將校

應召直後ノ所屬隊但シ應召直後ノ所屬司令部、官衙、學校ナルトキハ(ヘ)ニ依ル

(ハ) 支那事變ノ爲召集セラレサル豫備役將校

在職又ハ應召(支那事變前ノ應召トシ勤務演習召集ヲ含ム)最後ノ所屬隊

前項ノ規定ニ依ルノ外必要ニ應シ陸軍大臣ハ特定ノ者ニ他ノ兵種ヲ指定スルコトアルヘシ

二 憲兵及各部將校

陸軍武官等表ノ官種別ニ從ヒ左ノ區分ニ依ル

憲兵、兵技、航技、主計、軍醫、藥劑、齒科、衛生、獸醫、獸醫務、軍樂

三 第一號該當者中舊兵科ヲ有シタル者ニシテ當該兵科ト新兵種ト其ノ稱呼ヲ異ニスル者ニ在リテハ舊兵科ニ括弧ヲ附シテ之ヲ併記(兵科撤廢以前ニ於テ兵科ヲ轉シタル者ニ在リテハ其ノ轉科前ノ兵科ヲモ)スルモノトス爾後兵種ヲ轉シタル者(航空、憲兵又ハ各部ニ轉シタル者ヲ除ク)ニ關シ亦同シ

註 現役將校及特別志願將校ノ兵種及特業ハ昭和十六年以降編纂ノ將校停年名簿ニ之ヲ登載ス

附表

兵科將校兵種區分表

防照高	白重	野	砲船騎山野	搜騎裝戰	野制	步	所	兵科將校兵種區分表
空射	砲	戰	兵船砲砲砲	甲	戰毒	兵	屬	
監空砲	砲兵	重砲兵	情砲兵兵兵	索兵車	瓦訓	斯練	隊	
視			報兵	車				
隊隊隊	隊隊	隊	隊隊隊	隊隊隊隊	隊所	隊	隊	
			(高射砲關係者ヲ除ク)					
防	重	野	野	機	化	步	兵	
空	砲	重	山	甲	兵	兵		
			砲				種	

表
目

考 備	自輜	氣	航航航飛飛飛	電	鐵	工	氣
	<p>本表ノ部隊ハ編制附表ノ主タルモノノミヲ掲ク國境守備隊、獨立守備隊、下士官候補者隊、諸學校教導隊、同 練習隊等ハ本表中各其ノ類似ノモノニ準ス二種上ノ兵種ヲ混用シ又ハ二種以上ノ兵種ニ共通スル機關銃隊、 通信隊、衛生隊、道路隊、作井隊、測量隊、鳩隊、架橋材料隊、泛水作業隊、兵站警備隊、勤務諸隊、患者 輸送隊、兵器修理所、野戰兵器廠、野戰自動車廠、野戰航空廠等亦同シ</p>	動重	象	行 空空空 行行 場	信	道	兵
車兵		隊	情通教 設 報信育 場戰 定	隊	隊	隊	隊
	輜	氣	航	電	鐵	工	氣
	重	象	空	信	道	兵	球

秘

陸密第四三三號

(甲)

戰時諸勤務令規定ノ諸報告整理ノ細部ニ關スル規定ノ件達

陸軍一般

戰時諸勤務令規定ノ諸報告整理ノ細部ニ關スル規定左ノ通定ム

昭和十六年二月十七日

陸軍大臣 東條英機

戰時諸勤務令規定ノ諸報告整理ノ細部ニ關スル規定

第一條 本規定ハ昭和十六年軍令陸乙第一號ニ基キ之ヲ定ム

第二條 附表第一ニ示ス諸報告ハ其ノ規定ニ拘ラス當分ノ内毎月^{盡日}提出スルモノトシ各種旬報ハ其ノ名稱ヲ月報

ト改ム

第三條 附表第二ニ示ス諸報告ハ其ノ規定ニ拘ラス當分ノ内之ヲ省略スルモノトス

第四條 昭和五年軍令陸乙第十七號戰時衛生勤務令第三百五十八、第四百六、第四百三十五ニ示ス諸報告ハ其ノ規

定ニ拘ラス毎月^{十日}、^{盡日}二十日、提出スルモノトス

第五條 大正七年軍令陸乙第十一號戰時獸醫部勤務令第十九、第二十、第四十一、第九十九ニ示ス獸醫材料月報及

蹄鐵月報ハ其ノ規定ニ拘ラス每半年^{九月}、^{三月}、^{盡日}提出スルモノトス

提出時期ヲ變更スヘキ諸報告一覽表

制定年月	軍令番號	勤務令ノ名稱	條項	報告ノ名稱
大三、九	軍令陸乙第七號	軍兵站勤務令	第九十	戰時旬報、人馬現員表
昭二、一一	軍令陸乙第二十號	輔重隊勤務令	第七十五	兵站司令部經理旬報、兵站司令部旬報
昭三、七	軍令陸乙第八號	自動車隊勤務令	第四十七	人馬現員表、豫備乘馬増減表
昭三、七	軍令陸乙第九號	野戰築城部勤務令	第三十五	人員車輛現數表
昭三、七	軍令陸乙第十號	砲兵情報班勤務令	第三十二	人馬現員表、戰時旬報
昭四、八	軍令陸乙第十九號	輸卒隊勤務令	第三十七	人馬現員表
昭四、八	軍令陸乙第二十號	兵站輸送部隊勤務令	第三十六	人馬現員表
昭五、八	軍令陸乙第十一號	野戰照明隊勤務令	第六十五	人馬現員表
昭五、八	軍令陸乙第十二號	架橋材料中隊勤務令	第十五	人馬現員表、器材現況表
昭五、八	軍令陸乙第十五號	航空通信隊勤務令	第十四	人馬現員表

秘

陸密第四三五號

(甲)

紀元二千六百年祝典記念章授與資格者調査ノ件陸軍一般へ通牒

昭和十六年二月十九日

陸軍省副官 川原直一

紀元二千六百年祝典記念章ノ陸軍關係授與範圍並授與銓衡範圍、其ノ他別紙ノ通定メラレタルニ付昭和十五年十一月十日現在ノ本人所屬部隊(常時服務部隊)ニ於テ調査シ所管長官之ヲ取纏メ前段授與範圍ニ屬スル分ハ來ル三月二十日迄(外地ハ三月三十一日迄)後段銓衡範圍ニ屬スル分ハ三月三十一日迄ニ別紙各様式ニ依リ名簿五通(在職年證明ノ履歷書、觀兵式參加ノ證明書、勤務實績書等ハ各二通)ヲ區分調製提出相成度右依命通牒ス

追テ昭和十五年二月十一日現在勅任官、同待遇タリシ者(式典參列ノ有無ニ拘ラス)又在京部隊、地方部隊ノ一部ヨリ軍代表トシテ參列シタル等ノ向ハ既ニ該記念章ヲ授與セラレアルニ付本調査外トシ提出セサル様特ニ注意セラレ度申添フ

- (1) 從六位
- (2) 勳六等以上ノ有位有勳者
- (3) 功六級

- (4) 高等官、同待遇ニシテ昭和十五年十一月十日現在在職シ其ノ在職十年以上ノ者
 - (5) 判任官二等以上及同待遇（昭和十五年十一月十日現在ニ於テ判任官二等以上及同待遇ノ意ニシテ當初ヨリ二等以上ノ意ニ非ス）ニシテ昭和十五年十一月十日現在在職シ其ノ在職十五年以上ノ者
- 註 奏任待遇、判任待遇ハ勅令又ハ之ト同等ノ命令ニ依ル正規ノ待遇者ヲ謂フ

◎上記ノ從六位、勳六等、功六級以上ノ者ハ在官在職ノ有無ヲ問ハス總テ有資格者トス但シ右ハ昭和十五年十一月十日現在ニ於テ其ノ位階、勳等、功級ノ發令済ミノモノナルヲ要ス

◎昭和十五年十一月十日現在ノ現役者、應召中ノ者、特別志願在職中ノ者、在官在職中ノ陸軍文官、其ノ他豫、後備役、退役將校、元文官等ニテ十一月十日囑託、職員等ノ類ニテ陸軍ニ在勤ノ者ハ軍ニテ取扱フ其ノ他ノ一般豫、後備役、退役將校、元文官等ハ昭和十六年二月十日官報四一二頁登載賞勳局廣告ノ授與該當者届出方ニ依リ夫々地方廳ニ申出ツルモノトス

- ◎在官在職等ニ中斷期間アル場合前後之ヲ通算ス
- ◎高等官、同待遇、判任官、同待遇ノ在職年數ヲ通算ノ場合ハ總テ増減セス其ノ儘ヲ通算ス
- ◎年數計算方法ハ敘勳内則規定ニ依リ一ヶ月ハ十五日ノ前後ヲ以テ區分ス（加算年ハ含マス）
- ◎在職年ヲ證明スル様式第三ニ依ル履歷書ノ添付ヲ要ス

祝典ノ要務及事務關係者ノ要務範圍

(6) 在京紀元二千六百年祝典觀兵式ニ當リ判任官以上ノ資格ヲ以テ諸兵指揮官ノ指揮下ニ入り在京ノ祝典觀兵式ニ參加シタル者

註 右以外單ナル參列、陪覽ノ類ハ含マズ

(7) 紀元二千六百年祝典前後ニ於テ祝典ニ伴フ要務並事務ニ正規ノ判任待遇以上ノ身分ヲ以テ關與シタル者

◎觀兵式參加者ハ部隊毎ニ一括セル證明書ヲ添付ノコト

◎要務及事務關係者ハ其ノ關與シタル要務及事務ヲ具體的ニ且ツ勤務ノ實日數其ノ実績等ヲ明確ナラシムル各人毎ノ調査添付ヲ要ス(様式第五)

◎以上(1)乃至(7)迄中、資格併有ノ者ハ列記順序ノ最上位ノモノニ依ラシメ重複記載ヲ避ケ様式第一、第二、第四、ノ名簿ニハ官位勳功等洩レナク記入ノコト

◎皇族、王公族殿下ニシテ陸軍御在籍ノ御方ニ對シ奉リテハ其ノ筋ノ取扱ニ屬シ本調査外トス

◎現役武官中文官トシテ在職シアル者ハ其ノ關係廳ニ連絡シ武官トシテハ提出セサルコト

◎應召中ノ武官ニシテ他省關係文官等アリ而シテ双方ノ身分ニ資格ヲ有スル如キハ在動シアル陸軍側ニテ取扱ヒ其ノ旨文官關係廳ニ通報ノコト

◎褒賞條令ニ依ル褒章受領者アラハ別途ニ提出ノコト(現役、應召中、特別志願就職者、在職在動ノ陸軍文官等ニ限ル)

◎有位、有勳者ニシテ其ノ位ノ喪失又ハ勳章擬否ノ未決定ノ如キ特殊者ハ別途ニ書類提出ノコト

◎昭和十五年十一月十一日以後ニ於テ位階ヲ失ヒ又ハ勳章、褒章ヲ擬奪セラレタル者ハ本調査外トス、昭和十五年

十一月十日現在有位有勳者ニシテ其ノ禮遇ヲ停止セラレ又ハ褒章受章者ニシテ其ノ佩用ヲ禁止セラレタル者亦同
據トス

◎昭和十五年十一月九日以前死亡者ハ本調査ニ該當セス資格ナシ
様式第一 用紙規格昇紙

紀元二千六百年祝典記念章授與資格者名簿
從六位、勳六等、功六級以上ノ者

部 隊 名 (通稱號)

昭 和 十 五 年 十 一 月 十 日 現 在		官 位	勳 功 爵	氏 名
陸 軍 少 將	正 五	三	五	何 某
陸 軍 大 佐	從 五	四		何 某
陸 軍 大 尉	從 六	六		何 某
陸 軍 少 尉	正 八	六	七	何 某
陸 軍 曹 長		七	六	何 某
陸 軍 技 師	從 六			何 某
陸 軍 屬	正 七	六	六	何 某
囑 託	正 六	四		何 某
雇 員		六	七	何 某

各三類半

四 類

一 類半

各一類

二

四 類半

三

五

備考

◎陸軍少將ノ記載例ハ昭和十五年二月十二日以後勅任官トナリタルモノヲ示セリ

(昭和十五年二月十一日以前ノ勅任官、同待遇者ハ總テ授與濟ミ不要トス)

◎囑託、雇員ハ官名ニ非ラサルニ付參考トシテ正本一通ノミニ囑託、雇員ト記入シ他ノ四通ハ記載セス餘白ト

シ置クコト尙之等ノ者在郷將校、准士官等ノ者ト雖モ其ノ官ヲ省略記入セス

◎後日證狀配付等ヲ考慮ニ入レ部隊限リニ於テ適當欄ニ本籍共ノ他所事項記入シ置クヲ便トセン爲念(本省提出ノ分ハ不要トス)

◎各人ノ官位勳功氏名ハ必ス正確ヲ保セラレ度、後日ノ訂正事項ハ時日ヲ要スルノミナラス遺憾ノ次第ナルニ

依ル

◎各部隊名簿ノ末尾ニ小計人員記入ヲ避ケ所管長官ヨリノ添書ノ末尾ニ左記ノ通り記載ヲ要ス

從六位、勳六等、功六級以上ノ者 合計 何名

高等官、同待遇在職十年以上ノ者 合計 何名

判任官、同待遇在職十五年以上ノ者 合計 何名

總計 何名

様式第二 用紙規格罫紙

紀元二千六百年祝典記念章授與資格者名簿
高等官、同待遇在職十年以上ノ者
判任官、同待遇在職十五年以上ノ者

部 隊 名 (通稱號)

		昭和十五年十一月十日現在	
在職年	官	位	勳功氏名
十年以上	陸軍大尉	正七	何某
(同)	陸軍通譯	從七	何某
(奏待)			

備考

◎高等官、同待遇、十年以上ノ者ト判任官、同待遇者混同記入シ支障ナシ但シ名簿ノ順序ニ年數ヲ算出シタル
 履歷書ヲ名簿ノ末尾ニ一括添付ヲ要ス
 ◎婦人ノ記念章ハ男子ノ分ト異ナリアルニ付氏名下ニ(女)ト記入ノコト
 ◎其ノ他ノ注意事項ハ從六位、勳六等、功六級以上ノ記載例備考第三項以下全部同様ニ付參照ノコト

様式第三 用紙規格紙

履歷書

同	同	何年何月何日	要項	資格	在職年數	生年月日	某
		陸軍歩兵伍長	判任	陸軍准尉	勳八等	何	某
同	同	陸軍歩兵軍曹	同		何年何月		
同	現役満期						

各三欄半

一欄半

四欄

各一欄

四欄半

以十五年

陸軍准尉

八

七

何

某

同

陸軍屬

從七

七

何

某

同

看護婦長

八

何

某(女)

(判二待)

陸軍警査

八

何

某

同	陸軍審査判任待遇	何年何月(待遇ヲ遞減セス)
同	陸軍審査退職	
同	現役志願入隊就職判任	
同	陸軍歩兵曹長同	何年何月
同	解職	
同	臨時召集應召就職判任	
同	瑞八等	
同	陸軍歩兵准尉判任	何年何月
同	陸軍准尉同	
昭 和 十 五 年 十 一 月 十 日	現在應召中同	

五類 五類 二類半 七類半 合計十五年一月

備考

◎現ニ瑞七ノ者ノ場合ハ瑞八ノ事項ハ省略ス、位階所有者ノ場合モ亦同シ要スルニ現有ノ最高位勲ノミ履歴欄ニ記入ス
 ◎末尾十一月十日現在、現役中、在職中、特別志願就職中等必ス記入シ置クヲ要ス

様式第四 用紙規格野紙

紀元二千六百年祝典記念章授與銓衡範圍、
祝典ノ要務及事務關與者名簿

昭和十五年十二月三十日現在

關與事項	勤務日數	部 隊 名 (通稱號)		
		官	位	氏 名
内閣祝典委員	何 日	陸軍中尉	從七	何 某
内閣祝典係員	同	陸軍曹長(判二)	七	何 某
在京祝典觀兵式參加	同	陸軍少尉	八	何 某
同	同	陸軍准尉(判一)	七	何 某
同	同	陸軍曹長(判二)		何 某
同	同	陸軍軍曹(判三)		何 某
同	同	陸軍伍長(判四)		何 某
同	同	陸軍憲兵兵長(判特)		何 某
祝典三件ノ警衛警戒	同			何 某

備考

- ◎高等官タル内閣祝典委員、祝典觀兵式參加者ノ内既ニ軍代表ニテ參列シアル者ハ記念章授與濟ミニ付本調査外トシ提出ノ要ナシ
- ◎本要務並事務關與者中、從六位、勳六等、功六級以上ノ者或ハ高等官、同待遇在職十年以上、判任官、同待遇

遇在職十五年以上ノ者ハ總テ該當資格ニ組入レ其ノ資格ナキ者ノミニ限リ本様式ニ依リ列序順ニ調製提出ノコト

◎各部隊毎ニ在京祝典觀兵式參加者ハ高等官、判任二等以上、三等以下ノ順位ニ別括ノ名簿調製ノコト

◎觀兵式參加者トハ判任官以上ノ資格ヲ以テ諸兵指揮官ノ指揮下ニ入り在京祝典觀兵式參加者ノミニシテ單ナル參列、陪覽ノ類ハ之ヲ含マズ

◎各部隊毎ニ證明書(何某以下何名祝典觀兵式ニ參加セルコトヲ證明ス)ヲ添付ノコト

◎其ノ他ノ者ハ様式第五ニ依ル勤務ノ實績調書ヲ各人毎ニ添付ヲ要ス

様式第五 用紙規格紙

祝典ニ伴フ要務(業務)關與ノ實績調書 (昭和十五年十二月三十日現在)ノ一例

部 隊 名 (通稱號)

元内閣祝典係員 陸軍曹長 何 某

右者紀元二千六百年記念祝典ニ際シ判任官(同待遇)トシテ自昭和十五年 月 日 何日間何々ノ要務(業務)ニ勤務シ

此ノ間常ニ克ク精勵シ分野ノ責務ヲ盡シテ遺算ナカラシメタル功績ハ定ニ多大ニシテ顯著ナリシヲ認ム

昭和十五年 月 日

元紀元二千六百年祝典接待第三部

庶務班長 陸軍大佐 何 某 ㊦

接待班、儀式班、場内整理班等右ニ倣フ、其ノ他關係ノ向ハ當時勤務者ヲ區處又ハ指揮シタル部隊ノ副官

又ハ之ニ準スル者調製ノコト

秘

陸密第五九一號

陸軍軍人軍屬出張規則改正ノ件達

陸軍軍人軍屬出張規則別紙ノ通改正ス

昭和十六年三月六日

陸軍一般

(甲)

陸軍大臣 東條英機

陸軍

陸軍出張規則

- 第一條 陸軍軍人軍屬ノ出張ニ關シテハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外本規則ニ依ル
- 第二條 本規則ニ於テ所管長官ト稱スルハ師團長又ハ之ト同等以上ノ權アル長官ヲ、獨立部隊長ト稱スルハ獨立シタル軍隊、官衙、學校、特務機關及戰時又ハ事變ノ際ニ於ケル特設機關ノ長ヲ謂フ但シ陸軍大臣直轄ノ官衙又ハ學校ニ在リテハ各其ノ長ハ所管長官ニ、支部、支廠、分廠又ハ支所ニ在リテハ各其ノ長ハ獨立部隊長ニ該當ス
- 第三條 出張地域、出張命令(認可)權及其ノ他ノ事項ニ關シテハ別表ニ規定スル所ニ依ル
- 第四條 前條ノ規定ニ依リ認可ヲ要セザル所管長官及獨立部隊長ノ出張ニ在リテハ其ノ都度用務、期間及場所等ヲ具シ各其ノ命令(認可)ノ權アル長官ニ豫報スベシ
- 第五條 第三條ニ規定スル以外ノ出張ニ在リテハ順序ヲ經テ陸軍大臣ニ上申スベシ
- 第六條 所管長官ハ出張ノ命令又ハ認可ノ權限ニ關シ共ノ定例ニ屬スルモノ又ハ特ニ必要アリト認ムルモノハ其ノ權限ノ一部ヲ隸下ノ長ニ委任スルコトヲ得
- 第七條 事變等ニ際シ事急ニシテ本則ニ依ル能ハザルトキハ便宜決行ノ後事由ヲ具シ報告スルコトヲ得
- 第八條 令達豫算ヲ以テ支辨シ得ザル出張ニ在リテハ其ノ所要經費ニ關シ豫メ陸軍大臣ノ認可ヲ受クベシ
- 第九條 關東軍司令官別表特別規定ニ依リ出張ニ關スル規定ヲ定メタルトキハ之ヲ陸軍大臣ニ報告スルモノトス

考 備	者 勤 在 洲 滿		者 勤 在 灣 臺、鮮 朝、地 内			出 張 者
	所 管 長 官	關東軍司令官ニ隸屬スル者 (所管長官ヲ除ク)	獨 立 部 隊 長	獨 立 部 隊 長	所 管 長 官	出 張 者
考 備	鮮 朝 地 内 及 内 洲 滿		那 支、洲 滿 及 灣 臺、鮮 朝、地 内			出 張 命 令 (認 可) 者
	陸 軍 大 臣	一 關東軍司令官ノ定ムルトコロニ依ル 二 關東軍司令官必要ト認ムルトキハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ北支那、中支那及南支那へ出張セシムルコトヲ得	獨 立 部 隊 長	所 管 長 官	陸 軍 大 臣	出 張 命 令 (認 可) 者
<p>一 在滿飛行集團長ニ隸屬スル在鮮部隊所屬者ノ滿洲出張ニ關シテハ朝鮮内ノ出張取扱ニ準ス</p> <p>二 内地所在ノ長官ニ隸屬スル在滿部隊所屬者ノ滿洲内及内地出張ニ關シテハ内地在勤者ノ内地及滿洲出張取扱ニ準ス</p> <p>三 本表中内地ト稱スルハ南樺太及南洋委任統治領ヲ、滿洲ト稱スルハ關東州ヲ含ミタル地域ヲ謂ヒ北支那ト稱スルハ隴海線沿線地區(之ヲ含ム)以北蒙疆ヲ含ミタル地域ヲ、中支那ト稱スルハ揚子江沿岸地區(之ヲ含ム)以北隴海線沿線地區(之ヲ含マス)以南ノ地域ヲ、南支那ト稱スルハ揚子江沿岸地區(之ヲ含マス)以南ノ地域ヲ謂フ</p> <p>四 出張地域ハ其ノ用途ニ應ジ努メテ之ヲ一地區(新京、奉天、北京、南京、上海、漢口、廣東等)又ハ一地域(滿洲、關東州、北支那、中支那、南支那等)ニ限定シ滿洲國出張又ハ中華民國出張トセサルモノトス</p>	<p>一 關東軍司令官ノ定ムルトコロニ依ル</p> <p>二 關東軍司令官必要ト認ムルトキハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ北支那、中支那及南支那へ出張セシムルコトヲ得</p>		<p>一 關東軍司令官(師團長)ニ隸屬スル者ノ當該軍管區(師管)外ノ出張ニ在リテハ軍司令官(師團長)、憲兵隊ニ屬スル者ノ當該憲兵隊管區外ノ出張ニ在リテハ憲兵司令官、飛行集團長ニ隸屬スル者及官衙、學校ニ服務スル者ノ旅行日數二週日ヲ超ユル内地、朝鮮、臺灣ノ出張ニ在リテハ各其ノ所管長官ノ認可ヲ要ス</p> <p>二 滿洲又ハ支那出張ニ在リテハ所管長官之ヲ命スルモノトス但シ補充員引率又ハ軍需品輸送率領以外ノ支那出張ニ限リ陸軍大臣ノ認可ヲ要ス</p>	<p>一 軍司令官ニ隸スル者ノ當該軍管區内、師團長ニ隸スル者ノ當該師管區内、憲兵隊長ノ當該憲兵隊管區内、飛行集團長ニ隸スル者及他ノ者ノ旅行日數二週日以内ノ内地、朝鮮、臺灣ノ出張ニ在リテハ認可ヲ受クルヲ要セス</p> <p>二 支那出張ニ在リテハ所管長官陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ命スルモノトス</p>	<p>軍司令官ノ其ノ軍管區内、師團長ノ其ノ屬スル軍管區内及隣接師管區内、飛行集團長及憲兵司令官ノ旅行日數(往復共以下同シ)二週日以内ノ内地、朝鮮、臺灣ノ出張ニ在リテハ認可ヲ受クルヲ要セス</p>	<p>軍司令官ノ其ノ軍管區内、師團長ノ其ノ屬スル軍管區内及隣接師管區内、飛行集團長及憲兵司令官ノ旅行日數(往復共以下同シ)二週日以内ノ内地、朝鮮、臺灣ノ出張ニ在リテハ認可ヲ受クルヲ要セス</p>

秘

陸密第五九八號

(甲)

後備兵役制ノ廢止ニ伴フ豫備役兵ノ次別ニ關スル件陸軍一般へ通牒

昭和十六年三月七日

陸軍省副官 川原直一

後備兵役制ノ廢止ニ伴ヒ動員計畫上豫備役兵ノ次別ニ關シテハ左記ノ如ク取扱フコトニ定メラレタルニ付依命通牒

ス

左記

- 従前ノ豫備役ヲ豫備役第一次トス
- 同 後備役第一次ヲ豫備役第二次トス
- 同 後備役第二次ヲ豫備役第三次トス

陸軍

極秘

陸密第六〇一號

(甲)

考科表、兵籍、戰時名簿、停年名簿及動員計畫書類等ニ記載スヘキ特殊部隊所屬佐尉官ノ兵種
區分ニ關スル件陸軍一般へ通牒

昭和十六年三月七日

陸軍省副官 川原直一

首題ノ件左記上欄ノ部隊ニ在リテハ各其ノ下欄ノ區分ニ從ヒ其ノ他ノ事項ニ關シテハ昭和十六年二月陸密第四〇九號ノ規定ヲ準用スルコトニ定メラル

記

特殊自動車隊
迫撃隊

特自
迫撃

秘

陸密第六三〇號

(甲)

軍隊教育令別冊中改正ノ件達

軍隊教育令別冊中左ノ通改正ス

昭和十六年三月十二日

陸軍 第一 般

陸軍 大臣 東 條 英 機

騎第一表共ノ三、野第一表共ノ三、工第一表共ノ三、通第一表共ノ一、通第一表共ノ二及輜第一表共ノ三ノ第三期ノ課目中「師團演習」ヲ「師團演習若クハ之ニ準ズル演習」ニ改ム

輜第二表共ノ一ノ補充兵ノ欄中三、ヲ「劍術ハ銃劍術ノ基本動作ノ概要ヲ修得セシム」ニ改メ同表備考ニ左記ヲ加フ

「六、反對教育ヲ左ノ如ク實施スルモノトス

1、鞍馬中隊現役兵ニ對シテハ本業基本教育終了後鞍馬各個及分隊教練ヲ、同補充兵ニ對シテハ本業基本教育間
鞍馬各個教練ヲ略、完全ニ修得セシム

2、鞍馬中隊現役兵ニ對シテハ本業基本教育終了後鞍馬各個及分隊教練ヲ、同補充兵ニ對シテハ本業基本教育間
鞍馬各個教練ヲ略、完全ニ修得セシム

輜第二表共ノ二ノ補充兵ノ欄中二、ノ次ニ左記ヲ加ヘ以下番號ヲ逐次繰下グ

「三、實彈射撃ハ小銃基本射撃ヲ終了セシム」

秘

陸密第六七〇號

航空勤務者保護賜金令等適用ニ關スル件陸軍一般へ通牒

昭和十六年三月十五日

陸軍省副官 川原直一

落下傘ヲ使用シ航空演習又ハ航空勤務ニ従事スル者ニ對シ大正二年勅令第九號又ハ航空勤務者保護賜金令ヲ適用シ得ル儀ニ付依命通牒ス

(甲)

陸軍

秘

陸密第六七四號

年度末賞與等ノ一部公債買入ニ關スル件達

關係陸軍部隊

三月五日附陸密第五八一號ニ依ル年度末賞與追給及年度末賞與ノ支給ハ内地、朝鮮、臺灣及樺太ニ在ル部隊ニ屬スル軍人軍屬ニ就テハ左記各號ニ依ル儀ト心得ベシ

昭和十六年三月十五日

陸軍大臣 東 條 英 機

左記

- 一 年末賞與追給及年度末賞與受給者ハ別紙「公債買入標準額表」ノ公債買入標準額ニ相當スル公債ヲ買入ルモノトス但シ已ムヲ得ザル事由アル者ニ對シテハ所屬長官ニ於テ之ヲ減免スルコトヲ得
- 二 前號ノ公債ハ出納官吏又ハ之ニ準ズル者ニ於テ取廻メ之ヲ買入レ現金支給ノ形式ニ依リ賞與受給者ニ交付スル備モノトス但シ賞與支給ト同時ニ公債ヲ交付シ得ザル場合ニ在リテハ公債買入額ヲ控除シタル賞與金額ニ依リ賞與ヲ支給整理シ公債交付ノ際更ニ公債買入額ニ依リ現金支給整理ヲ爲スモノトス

考

陸軍

公債買入標準額表

賞與受給額	公債買入標準額
一〇〇圓以下	賞與受給額ノ一五%相當額
二〇〇圓以下	二〇%
三〇〇圓以下	二五%
五〇〇圓以下	三〇%
五〇〇圓ヲ超ユルモノ	三五%

備
 一 公債買入標準額(賣出價格トス)ハ夫々最低標準額ヲ示ス
 二 公債ハ支那事變國債、貯蓄債券又ハ報國債券ヲ最寄郵便局又ハ取扱銀行ニ於テ買入ルルモノトス

考

秘

陸密第七四九號

昭和十六年度陸軍憲兵學校ニ入學セシムヘキ尉官並兵科、部少尉候補者人員等ニ關スル件達

陸軍一般

首題ノ件ニ關シ左記ノ通定ム

昭和十六年三月二十二日

陸軍大臣 東條英機

一 人員 左ノ如シ
左記

陸軍憲兵學校ニ入學セシムヘキ尉官入	少尉候補者		計							
	憲兵	兵科	各部							
			憲兵	航空	其他	技術部	經理部	衛生部	獸醫部	
			五〇	三四〇	四六〇					八五〇
										一、一三〇

陸軍

(甲)

備
一 少尉候補者中「航空」及「經理部」ノ人員中ニハ他兵種(兵科)ノ者ヨリ轉スルモノヲ含ム
二 本表ノ人員ハ銓衡ノ結果多少變更スルコトアリ
考

二 陸軍補充令施行規則第二十二條ノ隊種別ハ左記ニ依ルモノトス
歩兵、騎兵、戰車兵、野砲兵、山砲兵、騎砲兵、野戰重砲兵、重砲兵、情報兵、氣球兵、工兵、鐵道兵、通信兵、飛行兵、防空兵、迫撃兵、輜重兵

三 試験ノ實施ニ關シ特ニ定ムルモノ左ノ如シ

(イ) 試験課目

經理部少尉候補者ニ在リテハ數學ハ算術ノミトシ物理及化學ノ試験ハ之ヲ除ク
衛生部少尉候補者ノ外國語學ノ試験ハ之ヲ除ク

(ロ) 試験實施要領

支那(佛領印度支那ヲ含ム以下之ニ同シ)ニ在ル部隊ニ屬スル兵科少尉候補者ニシテ戰闘行動等已ムヲ得サル事情ニ依リ正規ノ試験ヲ行フコト能ハサル者生シタルトキハ所管長官ハ速ニ其ノ旨教育總監ニ通知スルト共ニ之ニ對シ適宜ノ方法ヲ以テ試験ヲ行ヒ其ノ結果ニ基キ成績列次名簿(術科及學科毎ノ成績ヲ明ニス)ヲ調製シ昭和十六年八月十五日迄ニ到着スル如ク教育總監ニ送付スルモノトス

(ハ) 支那ニ在ル部隊ニ屬スル者ノ試験管理官ハ各其ノ所管ニ依リ支那派遣軍總司令官、北支那方面軍司令官又ハ南支那方面軍司令官トス

陸密第七六〇號

(甲)

陸軍平時編制改正ニ伴フ陸軍秘密書類ノ取扱ニ關スル規定中一部改正ノ件陸軍一般へ通牒

昭和十六年三月二十四日

陸軍省副官 川原直一

昭和十五年七月陸密第一五一九號ニ依ル首題ノ件ハ左記ノ通改メラレタルニ付依命通牒ス

左記

一 編制改正時ノ整理要領

1 昭和十六年四月一日ヨリ昭和十六年十二月三十一日迄新設、編制改正、廢止、改變後直チニ派遣、所管變更等ノ部隊ニ對スル充當、不足請求、過剩、引繼等ノ要領ハ昭和十五年陸密第一五一九號ニ同シ

但シ不足請求ハ取扱規則第十八條ニ準シ其都度調製者ニ請求スルモノトス

2 前項ニ依リ整理シタル分ノ引繼、充當等ノ報告、通牒ニシテ特ニ緊急ヲ要スルモノ以外ハ昭和十六年十二月三十一日現在ヲ以テ昭和十五年陸密第一五一九號ニ依リ措置スルモノトス

3 其ノ他ハ昭和十五年陸密第一五一九號ニ依ル

二 軍司令部新設後ノ取扱

1 書類取扱ノ系統ニ於テ「但シ昭和十六年三月三十一日迄ハ従前ノ通」トアルヲ「特ニ必要トスル書類以外ハ師

團ニ對シテハ別ニ指示スル迄ハ従前ノ通トス」ニ改メ

(註) 配布ノ場合獨立歩兵團、軍直轄部隊ノ分ハ軍司令部ニ、師團ノ分ハ軍司令部ヲ經由スルコト無ク師團ニ

直接配布スルモノトス

之カ爲師團ニ直送セル書類ノ名稱、員數等ハ軍司令部ニ對スル配布區分票等ニ適宜附記シテ通報スルモノトス

2 昭和十六年四月一日ヨリ同十二月三十一日迄ニ改變等ヲ實施スル保管者タル各部隊長ハ昭和十七年二月二十

八日迄ニ又軍司令官ハ同年四月三十日迄ニ昭和十五年陸密第一五一九號ノ措置ヲ爲スモノトス

但シ各軍司令部原簿登載日附ハ昭和十七年二月二十八日トシ、隷下師團ニ保管スル分ハ別ニ指示スル迄ハ軍司令

部ノ保管原簿ニ登載スルコト無ク整理シ置クモノトス

陸軍省

秘

陸密第七七四號

(甲)

特別志願將校ヨリ現役ト爲スヘキ者ノ採用竝ニ教育ノ爲メ派遣等ニ關スル件陸軍一般へ通牒

昭和十六年三月二十五日

陸軍省副官 川原直一

昭和十四年勅令第七三一號幹部候補生等ヨリ將校ト爲リタル者ノ役種變更ニ關スル件ニ依ル特別志願將校ヨリ現役ト爲スヘキ者ノ採用竝ニ教育ノ爲メ派遣等ニ關シ左ノ通定メラレタルニ付依命通牒ス

記

一 志願シ得ル者ノ範圍

昭和十三年四月以前ニ於テ採用セラレタル者(第七次採用以前ノ採用者)

二 採用人員及教育ノ爲メ派遣區分

左ノ如シ

兵科		兵科、部	區分	採用人員	教育ノ爲メ派遣	教育擔任部隊	教育期間
憲兵ノ者	航空關係ノ者						
一〇	一〇			一〇〇		陸軍憲兵學校	昭和十六年十二月一日
						陸軍航空士官學校	(憲兵ノ者ニ在リテハ八月一日)ヨリ概ネ一年間
						陸軍士官學校	
八〇	其ノ他ノ者						

陸軍

陸軍兵科少尉候補者試験規則

(イ) 憲兵又ハ航空關係ノ者以外ノ者ヨリ憲兵又ハ航空關係ノ者タルコトヲ志願スル者ニ對スル試験ハ原兵種ニ

應スル課目ニ付之ヲ行フ

(ロ) 第四條第二項、第六條第二項、第七條ノ書類ハ陸軍大臣ニ送付スヘシ

(ハ) 第五條ノ試験問題ハ陸軍大臣之ヲ定ム

(ニ) 第一表術科欄ノ「小隊」ハ之ヲ「中、小隊」トス

第一表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題
第二表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題
第三表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題
第四表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題
第五表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題
第六表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題
第七表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題
第八表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題
第九表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題
第十表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題
第十一表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題
第十二表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題
第十三表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題
第十四表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題
第十五表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題
第十六表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題
第十七表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題
第十八表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題
第十九表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題
第二十表	術科	陸軍大臣ノ指定スル試験問題

軍事秘密

陸密第八三一號

第三次、第四次露語通譯要員補備教育ニ關スル件達

昭和八年軍令陸乙第五號第三條ニ據リ露語通譯要員補備教育要領左ノ通定ム

昭和十六年三月三十一日

陸軍一般

陸軍大臣 東條英機

(甲)

陸軍

第三次及第四次露語通譯要員補備教育要領

第一條 本要領ハ昭和十五年度ニ引續キ兵科下士官、兵及補充兵ヲ教育シ戰時露語通譯要員ヲ養成スヘキ要領ニ關スル事項ヲ定ム

本要領中特ニ規定セサル事項ニ關シテハ昭和十五年陸密第三一〇號露語通譯要員補備教育要領ヲ準用スルモノトス

第二條 關東軍ニ於テ行フ教育ニ關シテハ特ニ指示スルモノノ外本要領ニ準シ關東軍司令官ニ於テ適宜規定スルモノトス

第三條 教育期間左ノ如シ

區分	教育隊		地	
	内	關東軍	内	關東軍
第三次	自昭和十六年三月二十日	自昭和十六年五月二十日	自昭和十六年三月二十日	自昭和十六年五月二十日
第四次	至昭和十七年八月二十日	至昭和十七年十一月二十日	至昭和十七年四月二十日	至昭和十七年十一月二十日

第四條 本教育ニ要スル人員、教育用資材等ハ特ニ規定スルモノノ外教育擔任部隊ノモノヲ使用シ施設ハ從來ノモノヲ使用スルモノトス

第五條 本教育ノ爲メ教育擔任官、教育場所及各教育隊ノ職員附表第一ノ如シ

第六條 教育隊長ハ教育擔任官ニ隸シ教育隊職員以下ヲ指揮シ通譯要員ノ教育ニ任ス教育隊ノ内務及經理等ニ關シ

通譯要員教育隊職員表

教育擔任官	教育場所	隊長	隊附	教官	摘要
留守近衛師團長	東京教育隊	佐(尉)官 一	尉官 一 下士官 五	邦人 六 外人 二	外人教官一ハ專任ト ス「ケ」ハ兼任トス以下 同シ
留守第四師團長	大阪教育隊	佐(尉)官 一	下士官 三	邦人 二 外人 四	
中部軍司令官	奈良教育隊	佐(尉)官 一	下士官 一	邦人 二 外人 一	
第五十六師團長	大村教育隊	佐(尉)官 一	下士官 一	邦人 二 外人 一	
西部軍司令官	下關教育隊	佐(尉)官 一	下士官 一	邦人 二 外人 一	

備考

一 教育隊長以下武官ハ教育擔任官ニ於テ隸下部隊ヨリ適任者ヲ選定シ之ヲ命スルモノトス

二 教官ハ陸軍省ニ於テ囑託シ教育隊所屬ノ軍、師團司令部ニ配屬ス但シ教育ニ關シテハ當該教育隊長ノ指揮ヲ受クルモノトス

又外人教官(東京教育隊)ノ專任一名ヲ除クハ教育末期ニ於テ約一月間配屬スルモノトス

三 本表ノ外教育擔任官ニ於テ隸下部隊ヨリ所要ノ隊附將校、下士官ヲ増加スルコトヲ得

第三次及第四次露語通譯要員補備教育要領

第一條 本要領ハ昭和十五年度ニ引續キ兵科下士官、兵及補充兵ヲ教育シ戰時露語通譯要員ヲ養成スヘキ要領ニ關スル事項ヲ定ム

本要領中特ニ規定セサル事項ニ關シテハ昭和十五年陸密第三一〇號露語通譯要員補備教育要領ヲ準用スルモノトス

第二條 關東軍ニ於テ行フ教育ニ關シテハ特ニ指示スルモノノ外本要領ニ準シ關東軍司令官ニ於テ適宜規定スルモノトス

第三條 教育期間左ノ如シ

區分	教育隊		地
	内	關東軍	
第三次	自昭和十六年三月二十日	自昭和十六年五月二十日	
第四次	至昭和十七年三月二十日	至昭和十七年四月二十日	
別ニ示ス			

第四條 本教育ニ要スル人員、教育用資材等ハ特ニ規定スルモノノ外教育擔任部隊ノモノヲ使用シ施設ハ從來ノモノヲ使用スルモノトス

第五條 本教育ノ爲ノ教育擔任官、教育場所及各教育隊ノ職員附表第一ノ如シ

第六條 教育隊長ハ教育擔任官ニ隸シ教育隊職員以下ヲ指揮シ通譯要員ノ教育ニ任ス教育隊ノ内務及經理等ニ關シ

通譯要員教育隊職員表

教育擔任官	教育場所	隊長	隊附	教官	摘要
留守近衛師團長	東京教育隊	佐(尉)官 一	尉官 一 下士官 五	邦人 六 外人 二	外人教官一ハ專任ト ス「ケ」ハ兼任トス以下 同シ
留守第四師團長	大阪教育隊	佐(尉)官 一	下士官 三	邦人 二 外人 四	
中部軍司令官	奈良教育隊	佐(尉)官 一	下士官 一	邦人 二 外人 一	
第五十六師團長	大村教育隊	佐(尉)官 一	下士官 一	邦人 二 外人 一	
西部軍司令官	下關教育隊	佐(尉)官 一	下士官 一	邦人 二 外人 一	

考 備

- 一 教育隊長以下武官ハ教育擔任官ニ於テ隸下部隊ヨリ適任者ヲ選定シ之ヲ命スルモノトス
- 二 教官ハ陸軍省ニ於テ囑託シ教育隊所屬ノ軍、師團司令部ニ配屬ス但シ教育ニ關シテハ當該教育隊長ノ指揮ヲ受クルモノトス
- 三 又外人教官(東京教育隊ノ專任一名ヲ除ク)ハ教育末期ニ於テ約一月間配屬スルモノトス
- 三 本表ノ外教育擔任官ニ於テ隸下部隊ヨリ所要ノ隊附將校、下士官ヲ増加スルコトヲ得

普通科臨時露語通譯要員教育人員表

考	備	教育隊										
		差出部隊										
		東部軍			北部軍		支那方面軍		派遣軍		小計	
		東部軍	北部軍	支那方面軍	派遣軍	小計	大坂	奈良	大村	下關	關東軍	總計
		三〇	一五	二五	二〇	九〇	六〇	三〇	三〇	三〇	四〇	四九〇
		別					示					二五〇
		三〇	一五	二五	二〇	九〇	六〇	三〇	三〇	三〇	四〇	七四〇

一 本表ノ人員ハ昭和十五年徵集現役兵及昭和十五年十二月一日ヨリ同十六年四月十日迄ニ召集セラレタル補充兵(但シ關東軍ニ於ケル第三次ニ在リテハ昭和十四年徵集兵及昭和十四年十二月一日ヨリ同十五年五月三十一日迄ニ召集セラレタル補充兵)ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヨリ選定スルモノトス

イ 中學校又ハ之ト同等以上ノ學校ヲ卒業シタル兵ニシテ幹部候補生ニ採用セラレサリシ者

ロ 特ニ露語ノ修學ニ適任ナル乙種幹部候補生

ハ 露語ノ素養ヲ有シ露語ノ修學ニ特ニ適任ナル下士官又ハ兵

二 本表ノ人員ハ概ネ第一號ノ資格者ノ數ニ比例スル如ク各兵種及各部隊ヨリ選出スルモノトス

三 教育擔任官ハ各隊差出人員中ニ不適任ナリト認ムル者アルトキハ教育開始當初ニ於テ成ル可ク速カニ關係師團長(軍司令官)ト協議ノ上之ヲ交代セシムルコトヲ得

戰時露語通譯要員教育用圖書支給表

附表第二共ノ二 (二冊一組)

高等科臨時露語通譯要員教育人員表

考 備	關 東 軍 在 (二滿部隊 (朝鮮ヲ含ム))	東 京 左 以 外 ノ 部 隊	差 出 人 員		計
			第 三 次	第 四 次	
<p>一 本表ノ人員ハ普通科終了者中ノ優秀者ニシテ且高等科採用時尙八月(關東軍教育隊ニ在リテハ六月)以上在營見込者中ヨリ選拔スルモノトシ教育擔任官(關東軍司令官ヲ除ク)ハ其ノ候補者(普通科人員ノ約一割)ノ成績、序列、役種、徵集年次、所屬及官氏名ヲ教育開始前一月迄ニ陸軍大臣ニ報告スルモノトス</p> <p>二 關東軍ニ於ケル高等科ノ人員ニ在リテハ一定期間滿洲國露人部落ニ於テ教育スルコトヲ得</p>	五〇	三〇	別ニ示ス	五〇	一〇〇
					三〇

秘

陸密第五八二號

(甲)

年末賞與特別增加追給ニ關スル件達

陸軍一般

昭和十五年陸密第二四一四號ニ依リ年末賞與ヲ給セラレタル者ニシテ昭和十五年十二月一日以降本年三月三十一日迄ノ間ニ於テ左記職務ニ服スル者(陸軍給與令細則第六條ニ依リ加給俸ノ支給ヲ受クル者ヲ除ク)ニ對シ此ノ際特ニ隊長トシテ修養ノ爲各所管長官ハ昭和十六年陸密第五八一號ノ外年末賞與ノ特別增加追給トシテ其ノ勤務月數(一箇月未滿ノ端日數ハ切捨ツ)ニ應ジ月額拾圓ノ割合ヲ以テ四箇月分以内ヲ別ニ支給スルコトヲ得但シ入學、分遣等ノ事由ニ因リ隊長トシテ實際ノ職務ニ服セザリシ月並ニ外國ニ在リテ陸軍戰時給與規則ニ依リ戰時増給ノ支給ヲ受ケタル月ニ對シテハ本賞與ヲ支給セズ

昭和十六年三月五日

陸軍大臣 東條 英機

左記

軍隊

補充隊長(之ニ準ズベキ隊長ヲ含ム)、大隊長、中隊長、機關銃隊長、步兵砲隊長、速射砲隊長、山砲兵隊長、騎砲兵隊長、高射砲隊長、戰車隊長、輕裝甲車隊長、通信隊長、無線隊長、無線情報隊長、道路隊長、材料廠長、國境守備隊(地區隊)步兵隊長、國境守備隊(地區隊)砲兵隊長、國境守備隊(地區隊)工兵隊長、飛行戰隊整備隊

秘

陸密第五八二號

(甲)

年末賞與特別増加追給ニ關スル件達

陸軍一般

昭和十五年陸密第二四一四號ニ依リ年末賞與ヲ給セラレタル者ニシテ昭和十五年十二月一日以降本年三月三十一日迄ノ間ニ於テ左記職務ニ服スル者(陸軍給與令細則第六條ニ依リ加給俸ノ支給ヲ受クル者ヲ除ク)ニ對シ此ノ際特別ニ隊長トシテ修養ノ爲各所管長官ハ昭和十六年陸密第五八一號ノ外年末賞與ノ特別増加追給トシテ其ノ勤務月數(一箇月未滿ノ端日數ハ切捨ツ)ニ應ジ月額拾圓ノ割合ヲ以テ四箇月分以内ヲ別ニ支給スルコトヲ得但シ入學、分遣等ノ事由ニ因リ隊長トシテ實際ノ職務ニ服セザリシ月並ニ外國ニ在リテ陸軍戰時給與規則ニ依リ戰時増給ノ支給ヲ受ケタル月ニ對シテハ本賞與ヲ支給セズ

昭和十六年三月五日

陸軍大臣 東條英機

左記

軍隊

補充隊長(之ニ準ズベキ隊長ヲ含ム)、大隊長、中隊長、機關銃隊長、歩兵砲隊長、速射砲隊長、山砲兵隊長、騎砲兵隊長、高射砲隊長、戰車隊長、輕裝甲車隊長、通信隊長、無線隊長、無線情報隊長、道路隊長、材料廠長、國境守備隊(地區隊)歩兵隊長、國境守備隊(地區隊)砲兵隊長、國境守備隊(地區隊)工兵隊長、飛行戰隊整備隊



秘

陸密第五〇六號

陸軍平時編制中ノ補充兵ノ定員充足ニ關スル件達

關係陸軍部隊

陸軍平時編制中ノ補充兵ノ定員充足ニ關スル件左ノ通定ム

昭和十六年二月二十五日

陸軍大臣 東 條 英 機

昭和十五年軍令陸乙第二十二號昭和十五年軍備改變要領其第二十條第二項及同陸密第一三七八號昭和十五年軍備改變要領細則其二著手順序區分表ニ據リ現ニ缺員ト爲シアル補充兵(衛生兵補充兵ヲ除ク)ハ昭和十六年四月以降之ヲ充足スルモノトス但シ昭和十五年陸支機密第二五四號支那事變關係部隊軍人軍屬等ノ補充交代等ニ關スル規程附表第四ニ據リ現ニ在隊シアル補充兵ヲ以テ充ツルモノトシ之カ處理ニ關シテハ同規程附表第五ニ據ルモノトス又歩兵下士官候補者隊、同乙種幹部候補生隊及砲兵教育隊(細部ハ別ニ示ス所ニ據ル)ヲ編成スヘキ聯隊ニ在リテハ當該教育隊被教育者ノ定員ニ應スル補充兵ヲ缺クモノトス

陸軍

三 昭和十四年一月陸支普第二三九號第一條ニ依リ陸軍ニ於テ給與スル日本赤十字社救護員ニ對シテハ前各號ノ規定ニ準ジ年末賞與ノ追加又ハ年度末賞與ヲ給スルコトヲ得

四 本建賞與ノ支給額、支給標準率及支出科目區分等ニ關シテハ別ニ支出官（臨時軍事費ニ在リテハ經理部長又ハ豫算令達部局ノ長）ニ通達ス

昭和十四年八月一日

賞與方針

一年末賞與ノ追加ハ左記区分ニ依リ給與ス

(イ) 將校

昭和十五年十一月三十日ニ於ケル階級ニ應ジ別表第一ノ金額

(ロ) 高等文官同待遇者

昭和十五年十一月三十日ニ於ケル年末賞與ノ基礎ト爲リタル俸給月額ヲ基礎トシ別表第二ノ割合ニ依ル

二 年度末賞與ハ左記区分ニ依リ給與ス但シ前號ノ規定ニ依リ年末賞與ノ追加ヲ受クル者ヲ除ク

(イ) 軍人

別表第一ノ金額

(ロ) 軍人以外ノ者ハ俸給(給料又ハ手当)月額(日給三十日分)本年三月三十一日ニ於ケル現給與額ニシテ加俸、ニ對シ別

表第二ノ割合トス

朝鮮、臺灣、樺太、北千島、南洋群島、關東州及外國ニ在勤スル者ニシテ在勤加俸又ハ加俸或ハ戰時増給ノ支給ヲ受ケザル者ニシテ豫メ在勤加俸又ハ加俸或ハ戰時増給ノ額ヲ加味シテ定メタル給料(手当)ノ支給ヲ受クル者ハ其ノ給料(手当)額ヨリ在勤加俸又ハ加俸或ハ戰時増給ニ相當スル額ヲ減ジタル額ヲ以テ前項ノ俸給(給料又ハ手当)月額トス

(ハ) 本年一月以降任官又ハ新任採用ノ者 陸軍ニ在職中ノ職任員、雇員等ヨリ判任官同待遇者又ハ高等官同待遇者ニ任ゼラ

軍人若ハ營外居住ノ兵又ハ陸軍部内ノ軍人以外ノ者ニシテ退職(持命、休職、停職中豫備役又ハ後備役ト爲リタル者ヲ除ク)シ其ノ當日若ハ翌日ヨリ引續キ陸軍部内ニ就職又ハ入隊(應召ヲ含ム)シタル者ヲ除ク 並ニ充員召集者ハ

臨時召集ニ依リ召集セラレタル者又ハ待命、休職若ハ停職ヨリ復職シタル者及現役憲兵兵長又ハ軍樂上等兵若ハ憲兵補、憲補ヲ命ゼラレタル者ニ對シテハ其ノ割合ヲ半減シタル額トス

三 陸軍部内ノ在職者ニシテ陸軍召集規則第二條ニ依ル召集中ノ者ニ對シテハ召集前ノ身分ニ應ズル給與ヲ爲スモノトス但シ充員召集若ハ臨時召集ニ依リ召集セラレタル者ニ對シテハ召集後ノ身分ニ應ズル別表ノ額ガ召集前ノ身分ニ依リ算定シタル額ヨリ多キトキハ其ノ差額ヲ加ヘタル額ヲ支給スルモノトス

四 軍人以外ノ者(第五號ニ該當スル者ヲ除ク)ニ對スル賞與ハ各所管毎ニ支出官ノ指示スル標準率ニ依リ豫算ノ款項毎ニ其ノ賞與シ得ベキ總人員ニ對シ區分算定シタル總金額ヲ超過セザルヲ度トシ其ノ各自ノ賞與額ハ昭和十五年十二月以後ニ於ケル勤務ノ成績、業務ノ繁閑及勤務日數ノ長短ヲ顧慮シ第一號及第二號ノ制限ニ拘ラズ適宜増減スルコトヲ得但シ一人ノ賞與額ハ支出官ノ指示スル標準率ニ依リ算定シタル金額以外ニ其ノ金額ノ五割以上ヲ増給スルコトヲ得ズ

五 軍人以外ノ者ニシテ外國(滿洲國ヲ除ク)ニ在勤スル者ニ對シテハ第一號及第二號ニ依ル額ヲ定額トシテ給與ス

六 賞與額ニシテ圓位未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ圓位ニ切り上ゲ支給スルモノトス

七 本達賞與ハ三月三十一日受給者現在ノ部隊(但シ陸軍部内職中召集セラレタル者ニシテ兵ノ階級ニ在ル者ハ應召前ノ部隊)ニ於テ給與スルモノトス但シ外國ニ在勤スル者(止ムヲ得ザル事由ニ基ク者ヲ除ク)ニ對シテハ留守宅渡ヲ爲スベキモノトス

陸軍部内職中召集セラレタル者(兵ノ階級ニ在ル者ヲ除ク)ニ對シテハ在職部隊ヨリ應召前ノ身分ニ應ズル賞與

額ヲ現所屬部隊ニ通報シ現所屬部隊ハ應召後ノ身分ニ應ズル賞與額トヲ比較シ支給額ヲ決定ノ上留守宅渡ノ手續ヲ爲シ又ハ現所屬部隊ニテ給與スルモノトス

八 所管長官ニ在リテモ本達ニ依リ給與ヲ受クベキモノトス

九 勤勉手當ヲ受クル業務ニ従事スル者ニ對シテモ本達ニ依リ賞與スルコトヲ得

別表第一

軍人ニ對スル賞與金額表

階	級	等	給	父母及子ナキモノ	參人迄	四人以上
大	將	甲	七四七	八〇〇	八八〇 <small>円</small>	
中	將	乙	六七七	七二五	七七四	
少	將		五八四	六二五	六六七	
大	佐		四八五	五一九	五五四	
中	佐		三七六	四〇三	四三〇	
少	佐		二七二	二九二	三一	
大	尉	一	二二二	二三八	二五四	
		二	一九三	二〇七	二二〇	
		三	一七二	一八四	一九六	
中	尉	一	一三二	一四二	一五一	
		二	一一九	一二八	一三六	
少	尉	甲	一一二	一二〇	一二八	
		乙	一〇〇	一〇七	一一四	
		一	二五二	二六九	二八七	

軍人以外ノ者ニ對スル賞與率表

考 備	區 分			
	家 族 數	父 母 及 子 ナ キ モ ノ	父 母 及 子 ア ル モ ノ	
一 本表ノ父母及子トハ受給者ト同一戸籍(之ニ準ズルモノヲ含ム)内ニ在リテ現ニ之ガ扶養ヲ受ケアル左記ノ者ヲ謂フ但シ高等文官同待遇者ニシテ年末賞與ノ追加ヲ受クル者ニ在リテハ昭和十五年十一月三十日ニ於ケル人員トス 1 滿六十歳以上ノ父母(受給者ガ戸主又ハ法定ノ推定家督相續人ニシテ且父母ノ收入月額拾五圓未滿ナル場合ニ限ル) 2 滿二十五歳未滿ノ子(受給者ノ俸給月額參百圓以上ノ者ニ在リテハ就職シアル子ヲ除ク) 二 前號ノ家族數ハ受給者ヲシテ申告セシムルモノトス	高等文官同待遇者	拾四割以内	拾五割以内	
	監任文官同待遇者、囑託員、憲兵補、憲補、監獄看守、警査、日本赤十字社救護員	拾五割以内	拾六割以内	拾七割以内
	雇員、傭人	拾六割以内	拾七割以内	拾八割以内

賞與方針

一年末賞與ノ追加ハ左記區分ニ依リ給與ス

(イ) 將校

昭和十五年十一月三十日ニ於ケル階級ニ應ジ別表第一ノ金額

(ロ) 高等文官同待遇者

昭和十五年十一月三十日ニ於ケル年末賞與ノ基礎ト爲リタル俸給月額ヲ基礎トシ別表第二ノ割合ニ依ル

二 年度末賞與ハ左記區分ニ依リ給與ス但シ前號ノ規定ニ依リ年末賞與ノ追加ヲ受クル者ヲ除ク

(イ) 軍人

別表第一ノ金額

(ロ) 軍人以外ノ者ハ俸給(給料又ハ手當)月額(日給三十日分)本年三月三十一日ニ於ケル現給與額ニシテ加俸、ニ對シ別

表第二ノ割合トス

朝鮮、臺灣、樺太、北千島、南洋群島、關東州及外國ニ在勤スル者ニシテ在勤加俸又ハ加俸或ハ戰時増給ノ支給ヲ受ケザル者ニシテ豫メ在勤加俸又ハ加俸或ハ戰時増給ノ額ヲ加味シテ定メタル給料(手當)ノ支給ヲ受クル者ハ其ノ給料(手當)額ヨリ在勤加俸又ハ加俸或ハ戰時増給ニ相當スル額ヲ減ジタル額ヲ以テ前項ノ俸給(給料又ハ手當)月額トス

(ハ) 本年一月以降任官又ハ新任採用ノ者 陸軍ニ在職中ノ勲託員、雇員等ヨリ列任官同待遇者又ハ高等官同待遇者ニ任ゼラレタル者、列任官同待遇者ヨリ高等官同待遇者ニ任ゼラレタル者及下士官以上ノ軍人若ハ管外居住ノ兵又ハ陸軍部内ノ軍人以外ノ者ニシテ退職(特命、休職、停職中兼備役又ハ後備役ト並ニ充員召集若ハ爲リタル者ヲ除ク)シ其ノ當日若ハ翌日ヨリ引續キ陸軍部内ニ就職又ハ入隊(應召ヲ含ム)シタル者ヲ除ク

臨時召集ニ依リ召集セラレタル者又ハ待命、休職若ハ停職ヨリ復職シタル者及現役憲兵兵長又ハ軍樂上等兵若ハ憲兵補、憲補ヲ命ゼラレタル者ニ對シテハ其ノ割合ヲ半減シタル額トス

三 陸軍部内ノ在職者ニシテ陸軍召集規則第二條ニ依ル召集中ノ者ニ對シテハ召集前ノ身分ニ應ズル給與ヲ爲スモノトス但シ充員召集若ハ臨時召集ニ依リ召集セラレタル者ニ對シテハ召集後ノ身分ニ應ズル別表ノ額ヲ召集前ノ身分ニ依リ算定シタル額ヨリ多キトキハ其ノ差額ヲ加ヘタル額ヲ支給スルモノトス

四 軍人以外ノ者(第五號ニ該當スル者ヲ除ク)ニ對スル賞與ハ各所管毎ニ支出官ノ指示スル標準率ニ依リ豫算ノ款項毎ニ其ノ賞與シ得ベキ總人員ニ對シ區分算定シタル總金額ヲ超過セザルヲ度トシ其ノ各自ノ賞與額ハ昭和十五年十二月以後ニ於ケル勤務ノ成績、業務ノ繁閑及勤務日數ノ長短ヲ顧慮シ第一號及第二號ノ制限ニ拘ラズ適宜増減スルコトヲ得但シ一人ノ賞與額ハ支出官ノ指示スル標準率ニ依リ算定シタル金額以外ニ其ノ金額ノ五割以上ヲ増給スルコトヲ得ズ

五 軍人以外ノ者ニシテ外國(滿洲國ヲ除ク)ニ在勤スル者ニ對シテハ第一號及第二號ニ依ル額ヲ定額トシテ給與ス

六 賞與額ニシテ圓位未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ圓位ニ切り上げ支給スルモノトス

七 本達賞與ハ三月三十一日受給者現在ノ部隊(但シ陸軍部内ノ在職中召集セラレタル者ニシテ兵ノ階級ニ在ル者ハ應召前ノ部隊)ニ於テ給與スルモノトス但シ外國ニ在勤スル者(止ムヲ得ザル事由ニ基ク者ヲ除ク)ニ對シテハ留守宅渡ヲ爲スベキモノトス

陸軍部内ノ在職中召集セラレタル者(兵ノ階級ニ在ル者ヲ除ク)ニ對シテハ在職部隊ヨリ應召前ノ身分ニ應ズル賞與

額ヲ現所屬部隊ニ通報シ現所屬部隊ハ應召後ノ身分ニ應ズル賞與額トヲ比較シ支給額ヲ決定ノ上留守宅渡ノ手續ヲ爲シ又ハ現所屬部隊ニテ給與スルモノトス

八 所管長官ニ在リテモ本達ニ依リ給與ヲ受クベキモノトス

九 勤勉手當ヲ受クル業務ニ従事スル者ニ對シテモ本達ニ依リ賞與スルコトヲ得

別表第一

軍人ニ對スル賞與金額表

階	級	等	給	父母及子ナキモノ	參人迄	父母及子アルモノ
大	將		甲	七七〇 <small>円</small>	八二五 <small>円</small>	八八〇 <small>円</small>
中	將		乙	七四七	八〇〇	八五四
少	將			六七七	七二五	七七四
大	佐			五八四	六二五	六六七
中	佐			四八五	五一九	五五四
少	佐			三七六	四〇三	四三〇
大	尉		一	二七二	二九二	三一
中	尉		二	二二二	二三八	二五四
少	尉		三	一九三	二〇七	二二〇
大	尉		一	一七二	一八四	一九六
中	尉		二	一三二	一四二	一五一
少	尉		甲	一一九	一二八	一三六
			乙	一一二	一二〇	一二八
				一〇〇	一〇七	一一四

考	備	住居外營				准士官	軍樂少尉	軍樂中尉	軍樂大尉												
		上等兵	兵長	伍長	軍曹																
<p>一 中將欄中甲トアルハ大臣、參謀總長、教育總監、軍司令官、陸軍航空總監、航空兵團司令官、師團長（親補職ニ限ル）、侍從武官長、軍事參議官、飛行集團長ノ職ニ在ル中將ヲ謂ヒ乙トアルハ次官其ノ他ノ職ニ在ル中將ヲ謂フ</p> <p>二 少尉欄中甲トアルハ准士官、乙トアルハ其ノ他ノモノヨリ少尉ニ任ゼラレタル者ヲ謂フ</p> <p>三 本年一月以降新任採用（見習士官ヨリ尉官ニ任官セル者ヲ含ム）又ハ應召ノ者ハ本表ノ半額トス</p> <p>四 父母及子トハ受給者ト同一戸籍（之ニ準ズルモノヲ含ム）内ニ在リテ現ニ之ガ扶養ヲ受ケアル左記ノ者ヲ謂フ但シ將校ニシテ年末賞與ノ追加ヲ受クル者ニ在リテハ昭和十五年十一月三十日ニ於ケル人員トス</p> <p>1 滿六十歳以上ノ父母（受給者ガ戸主又ハ法定ノ推定家督相續人ニシテ且父母ノ收入月額拾五圓未滿ナル場合ニ限ル）</p> <p>2 滿二十五歳未滿ノ子（大佐以上ノ者ニ在リテハ就職シアル子ヲ除ク）</p> <p>五 前號ノ家族數ハ受給者ヲシテ申告セシムルモノトス</p>																					
			二	一	四	三	二	一	三	二	一										
		六四	六四	六六	六九	七三	七五	八〇	八四	九〇	九六	一〇一	一一三	一二〇	一三二	一四五	一六三	一八〇	二〇五	二二二	二五二
		六八	六八	七一	七三	七八	八〇	八五	八九	九六	一〇二	一〇八	一二〇	一二八	一四二	一五五	一七四	一九三	二一九	二三八	二六九
		七三	七三	七五	七八	八三	八五	九一	九五	一〇二	一〇八	一一四	一二八	一三六	一五一	一六六	一八六	二〇六	二三四	二五四	二八七
		七三	七三	七五	七八	八三	八五	九一	九五	一〇二	一〇八	一一四	一二八	一三六	一五一	一六六	一八六	二〇六	二三四	二五四	二八七
		七三	七三	七五	七八	八三	八五	九一	九五	一〇二	一〇八	一一四	一二八	一三六	一五一	一六六	一八六	二〇六	二三四	二五四	二八七
		七三	七三	七五	七八	八三	八五	九一	九五	一〇二	一〇八	一一四	一二八	一三六	一五一	一六六	一八六	二〇六	二三四	二五四	二八七
		七三	七三	七五	七八	八三	八五	九一	九五	一〇二	一〇八	一一四	一二八	一三六	一五一	一六六	一八六	二〇六	二三四	二五四	二八七
		七三	七三	七五	七八	八三	八五	九一	九五	一〇二	一〇八	一一四	一二八	一三六	一五一	一六六	一八六	二〇六	二三四	二五四	二八七
		七三	七三	七五	七八	八三	八五	九一	九五	一〇二	一〇八	一一四	一二八	一三六	一五一	一六六	一八六	二〇六	二三四	二五四	二八七
		七三	七三	七五	七八	八三	八五	九一	九五	一〇二	一〇八	一一四	一二八	一三六	一五一	一六六	一八六	二〇六	二三四	二五四	二八七
		七三	七三	七五	七八	八三	八五	九一	九五	一〇二	一〇八	一一四	一二八	一三六	一五一	一六六	一八六	二〇六	二三四	二五四	二八七
		七三	七三	七五	七八	八三	八五	九一	九五	一〇二	一〇八	一一四	一二八	一三六	一五一	一六六	一八六	二〇六	二三四	二五四	二八七

軍人以外ノ者ニ對スル賞與率表

考 備	區 分			家 族 數		
	高 等 文 官 同 待 遇 者	監 判 任 文 官 同 待 遇 者、囑 託 員、憲 兵 補、憲 補、監 獄 看 守、警 査、日 本 赤 十 字 社 救 護 員	雇 員、備 人	父 母 及 子 ナ キ モ ノ	父 母 及 子 ア ル モ ノ	
<p>一 本表ノ父母及子トハ受給者ト同一戸籍(之ニ準ズルモノヲ含ム)内ニ在リテ現ニ之ガ扶養ヲ受ケアル左記ノ者ヲ謂フ但シ高等文官同待遇者ニシテ年末賞與ノ追加ヲ受クル者ニ在リテハ昭和十五年十一月三十日ニ於ケル人員トス</p> <p>1 滿六十歳以上ノ父母(受給者ガ戸主又ハ法定ノ推定家督相續人ニシテ且父母ノ收入月額拾五圓未滿ナル場合ニ限ル)</p> <p>2 滿二十五歳未滿ノ子(受給者ノ俸給月額參百圓以上ノ者ニ在リテハ就職シアル子ヲ除ク)</p> <p>二 前號ノ家族數ハ受給者ヲシテ申告セシムルモノトス</p>	拾四割以内	拾五割以内	拾六割以内	參 人 迄	四 人 以 上	
	拾四割以内	拾五割以内	拾六割以内	拾五割以内	拾六割以内	拾六割以内
	拾六割以内	拾五割以内	拾七割以内	拾七割以内	拾七割以内	拾八割以内

秘

陸密第一〇四九號

(甲)

日「ソ」中立條約締結ニ伴フ軍ノ態度ニ關スル件陸軍一般へ通牒

昭和十六年四月十八日

陸軍次官 木村兵太郎

今次日「ソ」中立條約締結ニ伴ヒ巷間往々ニシテ之ヲ以テ我對「ソ」戰備ノ輕減ヲ云爲スルモノナキニシモアラサル處我對「ソ」戰備充實既往ノ方針ニハ何等ノ變化ナキノミナラス特ニ此機會ニ於ケル思想、防諜其他各種謀略對策ニ關シテハ周密毅然タル態度ヲ以テ臨ムノ必要ヲ十分部内外ニ徹底セシメラレ度

尙之カ徹底ハ隱密ニ行ヒ本條約締結ノ政治的效果ヲ減殺セサル様慎重ヲ期セラレ度

右依命

陸軍

軍事祕密

陸密第一一九號

(甲)

第三次、第四次露語通譯要員補備教育要領中改正ノ件達

陸軍一般

昭和十六年陸密第八三一號中左ノ通改正ス

昭和十六年四月二十四日

陸軍大臣 東條英機

第三條 教育期間中關東軍第三次 「自昭和十六年五月一日」ヲ 「自昭和十六年六月一日」ニ、

同第四次 「自昭和十六年十一月一日」ヲ 「自昭和十六年十二月一日」ニ改ム

陸軍

陸密第一一四五號

(甲)

昭和十六年度採用スヘキ兵科第一年度下士官候補者採用數等ニ關スル件陸軍一般へ通牒

昭和十六年四月二十八日

陸軍次官 木村兵太郎

昭和十六年度採用スヘキ兵科第一年度下士官候補者採用數等ニ關シ左記ノ通定メラレタルニ付依命通牒ス

左記

- 一 陸軍補充令施行規則第三百三十四條ニ依リ聯隊ニ於テ採用シ得ル兵科下士官候補者ノ採用總數ハ昭和十五年徵集現役兵ニ在リテハ同年徵集兵總人員(幹部候補生採用人員ヲ控除ス)ノ約七乃至一〇%(航空關係ノ者ニ在リテハ一〇%乃至一五%)ヲ標準トシ昭和十五年五月一日以降昭和十六年四月十日ノ間ニ召集セラレタル補充兵ニ在リテハ現役兵ノ採用比率ヲ超過セサル範圍ニ於テ概ネ之ト素質ヲ等シカラシムル程度ノ人員トス
- 前項ニ依ル採用人員ヲ以テ直接自隊補充上必要ナル人員ヲ充足シ難キ見込ノ場合ニ於テハ著シク素質ヲ低下セシメサル範圍ニ於テ採用比率ヲ増加スルコトヲ得但シ第五十一乃至第五十七師團、獨立歩兵團其ノ他特殊ノ事情アル部隊ニシテ採用比率ヲ相當増加セサルヘカラサルモノニ付テハ軍司令官ニ於テ所要ノ下士官ハ他ノ隷下部隊ヨリ轉屬スル如ク適宜統制スルコトヲ得
- 二 所管長官ハ隷下部隊ノ部隊ヲ通シ第一號ニ依ル採用比率ノ最下限ニ達セサル場合ニ於テハ隊種別採用比率並ニ自隊補充ノ爲ノ過不足見込人員ヲ速ニ陸軍大臣ニ報告スルモノトス
- 三 航空關係ノ下士官候補者ノ特業區分ノ比率ハ左表ヲ標準トス

秘

陸密第一一九二號

陸軍給與令細則ノ規定ニ依ル被服ノ定數表改正ノ件達

陸軍諸給與令細則ノ規定ニ依ル被服ノ定數表左ノ通改正ス

昭和十六年五月六日

陸軍一般

陸軍大臣 東條英機

(甲)

陸軍

陸軍給與令細則

- | | |
|-----|---------------|
| 第一表 | 下士官被服 |
| 第二表 | 生徒被服 |
| 第三表 | 特種被服 |
| 第四表 | 備附被服(其一乃至其ノ四) |
| 第九表 | 轉出者並ニ殞歿用被服 |

第一表 下士官兵被服

野砲兵隊、野戰重砲兵隊 (鞍馬編制ノモノ)	搜索隊		騎兵隊		戰車、裝甲車中隊	步兵	憲兵	區分	品目	數量
	其他ノモノ	乘車、裝甲車中	其他ノモノ	戰車、裝甲車中						
—	—	—	—	—	—	—	—	年 四	軍帽	—
—	—	—	—	—	—	—	—	部各兵隊ニ但月六年一	略帽	—
—	—	—	—	—	—	—	—	部各兵隊ニ但月六年三	冬衣	—
—	—	—	—	—	—	—	—	部各兵隊ニ但年 三	冬袴	—
—	—	—	—	—	—	—	—	部各兵隊ニ但月七年二	夏衣袴	—
—	—	—	—	—	—	—	—	年 十	外雨套	—
—	—	—	—	—	—	—	—	月 六 年 五	外雨套	—
—	—	—	—	—	—	—	—	年 十	マント	—
—	—	—	—	—	—	—	—	月 四	襪	—
—	—	—	—	—	—	—	—	月 一 年 一	冬襪袴下	—
—	—	—	—	—	—	—	—	月 一 年 一	夏襪袴下	—
—	—	—	—	—	—	—	—	隊兵砲山ニ但月三	手袋	—
—	—	—	—	—	—	—	—	月 二 ノ 分 三	靴下	—
—	—	—	—	—	—	—	—	隊兵砲山隊兵歩ニ但 月八ハ(夕除ヲ工部隊 隊兵砲重砲野砲兵野 一ハ(ノモノノ所屬馬隊) 月三年	綢上靴	—
—	—	—	—	—	—	—	—	隊野兵重ニ但 月一年一	長靴	—
—	—	—	—	—	—	—	—	年 二	管內靴	—
—	—	—	—	—	—	—	—	隊兵砲野ニ但 月六年一	卷脚絆	—
—	—	—	—	—	—	—	—	年 六	拍車	—
—	—	—	—	—	—	—	—	年 三	第一種衣	—
—	—	—	—	—	—	—	—	年 三	第二種袴	—
—	—	—	—	—	—	—	—	同一際ノ管入ヲメ初	軍除手	—
—	—	—	—	—	—	—	—	兵工隊兵歩ニ但 月六年六	背囊	—
—	—	—	—	—	—	—	—	年 三	香粉袋	—
—	—	—	—	—	—	—	—	年 六	雜囊	—
—	—	—	—	—	—	—	—	年 十 二	飯盒	—
—	—	—	—	—	—	—	—	年 三 十 二	水筒	—
—	—	—	—	—	—	—	—	年 二 十	携帶天幕	—
—	—	—	—	—	—	—	—	年 四	被服手具	—

第三表 特種被服

三	第 旭				區二第		區一第	區			品
	工	山	搜	步	函	若	仙	分	給	與	
兵	砲	索	兵	館	松	宮	給				用
隊	兵	隊	隊	隊	衛	府	與	分	限		
七〇	一一〇	四〇	二〇〇		松	松	給	勤	年十	套外寒防	
一四〇	二〇〇	五〇	四〇〇		本	本	與	務	年五	靴寒防	
	四〇	三〇			衛	衛	目	用	年五	靴長寒防	
七〇	一一〇	四〇	二〇〇		戊	戊			年十	袋手大寒防	
					地	地					
					地	地					
								住	年四	下袴袴襦寒防	
								憲	年一	袋手寒防	
								下	月六		
								兵	年一	下靴寒防	
								士			
								官			
								長			
								以			
								下			
								內			
								居			
									年四	面覆寒防	
									年十三	布毛寒防	
									年五	簾 履	
								管			
								內			
								居			
								住			
								下			
								士			
								官			
								以			
								下			
								用			

考	備				區				
	管				師				
三	給	品	目	定	飛	札	旭	輻	師
七	三	戰	一五	五〇	院	院	兵	一五	一五
七	十	車	三〇	一〇〇	院	院	六〇	三〇	三〇
七	十	用	一〇				一〇		
七	十	作	八五	五〇			八五	一五	一五
七	十	業							
七	十	用							
七	十	防							
七	十	寒							
七	十	業							
七	十	靴							
七	十	用							

一、當分ノ内舊式防寒襟(給與期限十年)ヲ第二區(若松ヲ除ク)乃至第三區ノ部隊ニ貸與ス

二、第七師團制毒訓練所ニ左ノ戰車勤務用防寒被服ヲ貸與ス

三、戰車勤務用防寒被服ハ最寄軍隊ノ定數ニ加ヘ供用スルコトヲ得

東京航空學校	航空士官學校	航空通信學校	航空整備學校	航空技術學校	飛行學校							中野學校	憲兵學校	兵器學校	教導學校
					岐阜	熊谷	大洗	宇都宮	水戸	濱松	銚子				

一四	二一	一四	一九	二	二	一〇	六	四	四	二	二	二	二	三	九	六
----	----	----	----	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

豫備士官學校	幼年學校	豫科士官學校	士官學校	戶山學校	習志野學校	自動車學校	通信學校	輜重兵學校	工兵學校	防空學校	重砲兵學校	野戰砲兵學校	騎兵學校	千葉戰車學校	步兵學校	衛生材料廠

定員(分、派遣下士官兵ヲ含ム)ヨリ暫外居住ノ人員ヲ控除シタル員數但シ軍隊附各部下士官ニ在リテハ定員ノ二分ノ一ニ應スル員數

六	二二	一〇	二二	一九	三	六	三	一一	三	六	九	六	一七	一〇	七	一六
---	----	----	----	----	---	---	---	----	---	---	---	---	----	----	---	----

搜 索 隊	隊兵騎		戰 車 隊	同 隊	步 兵 隊	區 分	品 目	給 與 期 限	使 用 分 區	備 用	定 數
	(口)	近 衛									
		200				備 用	(共立前)帽禮儀 袴衣禮儀 套外紺 靴長 年十 年五十 年五十二				
						瓦 斯 動 務 用	(共立前)帽禮儀 袴衣禮儀夏 袴衣禮儀 帶劍禮儀 靴上編 年十 年五十 年五十 年十 年六				
						運 動 用	巾頭斯瓦 袴衣斯瓦 袋手斯瓦 靴斯瓦 袋手 年六 月六 月六 月六 月六				
						戰 車 用	帽動運 袴衣動運 帶動運 靴動運 年三 年三 年三 年一				
	20	20	110	20	100	作 業 用	帽車戰 鏡眼車戰 年三 年三 年三 年三 年一 年一				
	20	20	20	20		運 轉 用	帽業作 種一第衣作 種二第袴業 垂前 當胸 年二 年三				
						水 上 用	袋手用轉運 鏡眼塵防 年二 年三 年三 年三 年三				
							帽業作 袴衣業作 套外水防 靴業作 年三 年三 年三 年三				

第四表 備 附 被 服 (其ノ二)

考 備	運 輸 部	教 化 隊	獸 醫 學 校	軍 醫 學 校	經 理 學 校
一、本表中定員トアルハ新設、編制改正等ニ因リ定員ニ増減アルモノニ在リテハ著手順序ニ依ル人員トシ定員ナキモノハ現人員トス 二、運輸部ノ毛布、敷布及枕(覆共)ハ患者用トシ毛布ハ六枚一組トス 三、師團制毒訓練所ノ被服ハ最寄軍隊ノ定數ニ加ヘ供用スルコトヲ得 四、蚊帳ノ定數ハ一人用ノモノニ依ル二人以上ノモノヲ用フルトキハ之ニ應シ簡數ヲ減スルモノトス	一四〇				
	一四〇				
	一四〇				
		一二八	二	二	六

教育飛行團司令部	飛行隊						第一飛行集團司令部	氣球隊	區				
	第七	第四	第三	第六十二	第十	第五			第二	分	給與		品目
											期限	種	
								年六	種一第	巾頭空航			
								年六	種二第				
								年二	種一第	面覆空航			
								年一	種二第				
								月四年四	種一第	服空航			
								年三	種二第				
								年三	種一第	袋手空航			
								年三	種二第				
								年一	種一第	手袋	航空メ		
								年一	種二第	リヤス			
								年三	種一第	靴空航			
								年三	種二第				
								年六	卷襟	空航			
								年四	鏡眼	空航			
								年十	面	空航			
								年六	巾頭空航	熱電			
								年六	服空航	熱電			
								年四	袋手空航	熱電			
								年二	袋足空航	熱電			
								年十二	衣浮	空航			

第四表 備 附 被 服 (其ノ三)

考 備	東京航空學校	航空通信學校	航空技術學校	航空整備學校	飛行學校	航空士官學校	獸醫學校	經理學校	憲兵學校	兵器學校	幼年學校	豫科士官學校	士官學校	戸山學校	
一、本表中定員トアルハ新設、編制改正等ニ因リ定員ニ増減アルモノニ在リテハ著手順序ニ依ル人員トス 二、本表ノ外教育用トシテ防禦及防毒被服ヲ增加ス其ノ備附部隊及定數ハ別ニ之ヲ定ム 三、師團輕裝甲車訓練所ノ被服ハ最寄部隊ノ定數ニ加ヘ供用スルコトヲ得														110	

航空通信學校	飛行學校								航空士官學校	飛行實驗部	航空工廠	氣象部	航空技術研究所	航空總監部	教育飛行隊 第一百一	
	水戸	銚田	濱松	明野	下志津	岐阜	大洗	宇都宮								巖谷
一〇〇	二六〇	一一〇	二二〇	一八〇	一七〇	二〇〇	二〇〇	一五〇	七五〇	六〇〇	九五	四〇	一五	一〇〇	三五	五〇
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	二〇	一〇	五	五	一〇	五	二〇
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	二〇	一〇			一〇		二〇
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	二〇	一〇			一〇		二〇

考備	東京航空學校	航空整備學校	航空技術學校	官衙(氣象部及飛行實驗部ヲ除ク)ノ備附被服ハ最寄部隊ノ定數ニ加ヘ供用スルコトヲ得			
				二〇	五	一〇	五
	二〇	二〇〇	四〇	五	一〇	一〇	五
				五	一〇	一〇	五
				五	一〇	一〇	五

考 備	軍 病 院																					
	弘前	小倉	盛岡	新發田	若松	下志津	賀島	三島	立川	和歌山	山口	新田	札幌	甲府	富山	津島	知山	村松	青森	松江	鷗知	
一、本表中定員トアルハ新設、編制改正等ニ因リ定員ニ増減アルモノニ在リテハ著手順序ニ依ル人員トス 二、上靴ノ定數中ニハ看護用ヲ含ム 三、蚊帳ノ定數ハ一人用ノモノニ依ル二人用以上ノモノヲ用フルトキハ之ニ應シ簡數ヲ減スルモノトス	九	八	八	六	六	五	四	四	四	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
	九〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇	八〇
	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九
	一八	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

陸	區										
	東京第一	旭川	相模原第一	大原	千葉	熊本	京都	屋敷	姫路	古川	所澤
住居外營リヨ員定 士管内居住下 看宿番用	四六	二二	一八	一五	一四	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
	四六〇	二二〇	一八〇	一五〇	一四〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
	五〇六	二五三	一九八	一六五	一五四	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇
	九二	四六	三六	三〇	二八	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
	九二	四六	三六	三〇	二八	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
	四六	二二	一八	一五	一四	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
	四六〇	二二〇	一八〇	一五〇	一四〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
	五〇六	二五三	一九八	一六五	一五四	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇
	九二	四六	三六	三〇	二八	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
	九二	四六	三六	三〇	二八	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇

第四表 備 附 被 服 (其ノ四)

第九表 轉出者並殞殞用被服

備考	殞殞用		管内居住下士官 管外居住ニ轉ズル場合		區分品目
	夏	冬	乘馬者	徒步者	
	季	季			
一、「マント」ハ憲兵下士官ニ限ル 二、兩外套ハ憲兵下士官及軍樂部下士官ニハ支給セス 三、殞殞用ノ軍帽ハ略帽ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得	—		—		軍帽
			—		略帽
		—	—		冬衣袴
	—		—		夏衣袴
			—		外套
			—		雨外套
			—		マント
	—		—		襟布
		—	—		冬襪袴下
	—		—		夏襪袴下
		徒步者 —者		—	編上靴
		乘馬者 —者		—	長靴
		徒步者 —者		—	卷脚絆
—		—		靴下	

臺灣駐劄陸軍部隊給與規則細則

- 第八表 下士官兵被服
- 第九表 特種被服
- 第十表 備附被服(其ノ一)
- 第十表 備附被服(其ノ二)
- 第十一表 轉出者並ニ殞殞用被服

考備	各部下士官兵	航 空 隊	工 兵 隊	高 射 砲 隊	重 砲 兵 隊	山砲兵隊		步 兵 隊	憲 兵 長	區		品
						徒 步 者	乘 馬 者			分	給 與 期 限	
工兵丁中隊ノ作業衣袴ハ第二種トス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	年 六	帽 軍	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	シ但月六年一 年二ハ部各兵憲	帽 略	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	年 十	衣 冬	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	年 十	袴 冬	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	年 十 二	套 外	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	月 六 年 二	套 外 雨	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	年 十	ト ソ マ	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	月 三	布 襟	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	月 七 年 一	下袴袴襪冬	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	月 六	下袴袴襪夏	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	月 六 者 步 徒 三 但	袋 手	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	月 二 ノ 分 三	下 靴	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	兵砲山、隊砲歩シ但月九 月八ハ隊兵工、隊	靴 上 編	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	月 六 年 一	靴 長	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	年 二 八 兵 憲 但	靴 内 營	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	年 二	絆 脚 卷	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	月 六 年 一	車 拍	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	年 六	種一第 衣作	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	年 三	種二第 袴業	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	年 三	同 一 般 ノ 營 入 デ ノ 初	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	隊兵工、隊砲歩シ但年十 月六年六ハ	膝 手 隊 軍		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	年 三	囊 背		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	年 六	袋 負 荷		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	年 十 二	囊 雜		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	年 十 二	盒 飯		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	年 三 十 二	筒 水		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	年 二 十	幕 天 帶 携		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	年 四	具 入 手 服 被		

第八表 下士官兵被服

定

數

航空教育隊

考	備	一、本表中定員トアルハ新設、編制改正等ニ因リ定員ニ増減アルモノニ在リテハ著手順序ニ依ル人員トス
		二、第四飛行團司令部ノ備附被服ハ最寄部隊ノ定數ニ加ヘ供用スルコトヲ得
		三、本表ノ外教育用トシテ防彈及防毒被服ヲ増加ス其ノ備附部隊及定數ハ別ニ之ヲ定ム
		二六
		二〇〇

第十一表 轉出者並・殞用被服

考	備	殞 用		管内居住下士官 管外居住ニ轉ズル場合		區 分 品 目
		夏	冬	乘馬者	徒步者	
		季	季			
		—	—	—	—	軍 略
				—	—	帽
			—	—	—	冬 衣 袴
		—		—	—	防 暑 衣 袴
				—	—	外 套
				—	—	雨 外 套
				—	—	マ ン ト
		—		—	—	襪 布
			—	—	—	冬 襪 袴 袴 下
		—		—	—	夏 襪 袴 袴 下
					—	編 織 上 靴
		徒步者			—	長 靴
		乘馬者		—		卷 脚 絆
		徒步者			—	靴 下
		—		—	—	

一、「マント」ハ憲兵下士官ニ限ル
 二、雨外套ハ憲兵下士官ニハ支給セズ
 三、殞用ノ軍帽ハ略帽ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

朝鮮滿洲駐劄陸軍部隊給與令細則

第四表 下士官被服

第五表 備附被服(其ノ一)

第五表 備附被服(其ノ二)

第五表 備附被服(其ノ三)

第四表 下士官兵被服

山砲兵隊	野砲兵隊、野戰重砲兵隊 (鞍馬編制ノモノ)	搜索隊		師團戰車隊	步兵	憲兵	區	品
		乘車、裝甲車中隊	其他ノモノ					
徒步者	乘馬者	一	一	一	一	一	分	給
一	一	一	一	一	一	一	年	軍帽
一	一	一	一	一	一	一	各、兵數シ但月六年一	軍略
一	一	一	一	一	一	一	各、兵數シ但月六年三	冬
一	一	一	一	一	一	一	各、兵數シ但年三	冬
一	一	一	一	一	一	一	各、兵數シ但月七年二	夏
一	一	一	一	一	一	一	年	外
一	一	一	一	一	一	一	月六年五	雨
一	一	一	一	一	一	一	年	マ
一	一	一	一	一	一	一	月	襪
一	一	一	一	一	一	一	月一年一	冬
一	一	一	一	一	一	一	月一年一	夏
一	一	一	一	一	一	一	ノ隊兵砲山シ但月三	手
一	一	一	一	一	一	一	月二ノ分三	靴
一	一	一	一	一	一	一	兵砲山、隊兵歩シ但月九	鋼
一	一	一	一	一	一	一	野、兵數シ但月一年一	長
一	一	一	一	一	一	一	年	管
一	一	一	一	一	一	一	隊兵砲野シ但月六年一	卷
一	一	一	一	一	一	一	年	拍
一	一	一	一	一	一	一	年	衣
一	一	一	一	一	一	一	年	葉
一	一	一	一	一	一	一	同一際ノ管入テメ初	軍
一	一	一	一	一	一	一	、隊兵歩シ但年十	背
一	一	一	一	一	一	一	年	弁
一	一	一	一	一	一	一	年	雜
一	一	一	一	一	一	一	年	飯
一	一	一	一	一	一	一	年	水
一	一	一	一	一	一	一	年	携
一	一	一	一	一	一	一	年	被

憲兵隊	陸軍病院						航空教育隊	飛行場大隊	飛行隊	師團制毒訓練所	重砲兵隊		輜重兵隊	師團通信隊	獨立工兵隊	工兵隊
	大邱	連浦	會亭	羅南	咸興	平壤					京城	羅津				
憲兵隊長ノ定員ニ應スル員數	九	六	一六	三〇	七	一五	二九	一五	二〇	一五	三〇	一五	三〇	一〇	一五	二〇
	九〇	六〇	一六〇	三〇〇	七〇	一五〇	二九〇									
	九九	六六	一七六	三三〇	七七	一六五	三一九									
	一八一八	一二二二	三三三二	六〇六〇	一七一七	三〇三〇	五八五八									
	九	六	一六	三〇	七	一五	二九									
	二	二	三	六	二	三	六									

考 備

- 一、本表中定員トアルハ新設、編制改正等ニ因リ定員ニ増減アルモノニ在リテハ著手順序ニ依ル人員トス
- 二、師團制毒訓練所ノ寢具ハ最寄部隊ノ定數ニ加ヘ供用スルコトヲ得
- 三、上靴ノ定數中ニハ看護用ヲ含ム
- 四、蚊帳ノ定數ハ一人用ノモノニ依ル二人用以上ノモノヲ用フルトキハ之ニ應シ簡數ヲ減スルモノトス

在滿陸軍部隊臨時給與令細則

第五表 下士官被服

第六表 特種被服

第七表 備附被服

第五表 下士官兵被服

者	徒							區					
	其ノ他ノモノ	各部下士官兵	就隊ノモノ	馬スルモノ 除ク追撃隊	高射砲隊(乘)	立山砲兵隊 砲兵隊ノモノ	重砲兵隊(砲馬)	野砲兵隊(野戰)	通信隊ノモノ	步兵隊、御團	憲兵兵長	品目	數
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一		
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	略帽	一
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	冬衣袴	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	夏衣袴	三
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	外套	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	雨衣	一
												トマ	一
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	襪	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	冬襪	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	夏襪	三
												手袋	一
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	靴	三
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	編上靴	三
												長靴	三
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	管靴	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	卷脚絆	二
												拍車	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	作業衣袴	一
												第一種	一
												第二種	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	軍隊手	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	背囊	一
												吞負袋	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	雜囊	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	飯盒	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	水筒	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	携帶天幕	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	被服入手具	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	認識票	一

考 備	乗馬者		戦車隊、装甲車隊、 自動車隊及之ニ準 スル部隊ノモ	
	乗馬ヲナス モ	乗馬ヲナス モ	乗馬ヲナス モ	乗馬ヲナス モ
一、士官候補生及見習士官ノ被服ハ當該部隊ノ下士官兵ニ準シ且服制上所要ノ被服ヲ増加ス 二、工兵丁中隊及戊中隊ノ作業衣袴ハ第二種トス 三、關東軍司令官ハ演習、教育、諸勤務等ノ爲必要ト認ムルトキハ特殊部隊ニ對シ本表以外ノ品種ヲ増加スルコトヲ得此ノ場 合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ陸軍大臣ニ報告スルモノトス 四、諸生徒及召集者ノ所持定數ハ關東軍司令官ノ定ムル所ニ依ル 五、當分ノ内軍帽ニ代ヘ略帽ヲ用フルコトヲ得	一	一	一	一
	一	一	一	一
	三	三	三	三
	三	三	三	三
	一	一	一	一
	三	三	三	三
	三	三	三	三
	三	三	三	三
	三	三	三	三
	一	一	一	一
	一	一	一	一
	一	一	一	一
	一	一	一	一
	一	一	一	一
	一	一	一	一

第六表 特種被服

一 人 對 應 員 數				區 分 目	品
區四第	區三第	區二第	區一第		
其 他 地 區	區內河通省武省二除安 西省縣ノ内縣ノ區ク東 興遼、内、阜錦ヲ、省 安河興間懷新州除奉(第 西以安烏德縣ノ、省二 省ノ南省、及吉内通(區 地ノ熱伊林彰化第ヲ	ク武各ノ及安 縣縣内莊東)、及、遼河省 阜錦陽縣ノ内 新州縣以奉軸 ヲ(南天縱 除彰ノ省縣	關 東 州		
一	一			帽 寒 防	特 種 被 服
一	一	一	一	面 覆 寒 防	
一	一	一	一	套 外 寒 防	
一	一	一	一	下 袴 褲 襪 寒 防	
二	二	二	一	袋 手 寒 防	
二	二	二	二	下 靴 寒 防	
一	一			袋 手 大 寒 防	
一				袴 半 寒 防	
者馬乘 二 者步徒 二 者步徒 二	者馬乘 一 者步徒 一			靴 長 寒 防	
				靴 寒 防	
				絆 脚 寒 防	
一	一	一		袋 手 蚊 防	
一	一	一		面 覆 蚊 防	
一	一	一		卷 腹	
一	一			覆 盒 飯 寒 防	
一	一			覆 筒 水 寒 防	

備附
定數

各

部

隊

軍人軍屬現人員ニ對スル員數

四二

考

備

- 一、本表ノ外第二區ニ在リテハ定員ノ四分ノ一ニ應ズル防寒帽ヲ、第三區ニ在リテハ徒步者ノ定員ノ三分ノ一ニ應ズル防寒半袴ヲ增加ス
- 二、本表ノ外舊式防寒襟ヲ當分ノ内第一區ニ貸與ス
- 三、准士官以上及之ニ準ズル軍屬ニハ防寒覆面ニ代ヘ防寒帽ヲ、防寒靴ニ代ヘ防寒長靴ヲ貸與スルコトヲ得
- 四、第三區又ハ第四區ニ在ル航空部隊(地上勤務部隊ノミ)及自動車編成部隊ニハ作業用防寒被服ヲ、戰車部隊ニハ戰車用防寒帽及作業用防寒被服ヲ、通信部隊ニハ通信手用防寒大手袋ヲ各編成定員ノ四分ノ一ニ應ズル員數ヲ貸與シ通信部隊ニ在リテハ防寒大手袋ヲ、其ノ他ノ部隊ニ在リテハ防寒大手袋及防寒長靴ノ貸與ヲ各同數控除スルモノトス
- 五、本表ノ外所要ニ應ジ第三區及第四區ノ部隊ニ防寒毛布二枚ヲ增加スルコトヲ得
- 六、軍屬ニハ勤務其ノ他特ニ制服着用ヲ必要トスル場合ニ限り所要ノ被服ヲ貸與スルモノトス
- 七、本表ノ外防風面ヲ必要ニ應ジ貸與スルコトヲ得
- 八、本表ノ品目ハ時宜ニ依リ舊式品、試製品等ヲ以テ代用スルコトアルベシ
- 九、關東軍司令官ハ各駐屯地ノ氣候、風土及部隊ノ特殊事情ヲ顧慮シ備附品種ノ一部ヲ増減スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ事由ヲ具シ陸軍大臣ニ報告スルモノトス

防寒帽
防寒半袴

第七表 備附被服

考 備	病 院			各 部 (病院ヲ除ク)	區 分		品 目	
	三 等	二 等	一 等		分	目		
一、鐵帽ハ軍隊、憲兵隊(憲兵隊司令部ヲ除ク)及病院ニ限ルモノトス但シ病院ニ在リテハ衛生兵定員ノ三分ノ一ニ對スル員數 二、軍隊及憲兵隊(憲兵隊司令部ヲ除ク)ニ在リテハ定員外配屬者ノ現人員ニ對スル員數ノ鐵帽、防塵眼鏡及寢具ヲ必要ノ都度 增加スルコトヲ得 三、營外居住者ニ貸與スル寢具ハ家族ノ携行ヲ許ササルモノニシテ營内居住下士官兵ト起居ヲ共ニスルモノニ限リ寢具ヲ貸與 スルコトヲ得 四、防毒被服、特殊勤務用被服、作業被服及自動車運轉用被服ノ定數ハ別ニ之ヲ定ム 五、病院ニ在リテハ其ノ分院及收容患者ノ數ニ應ジ關東軍司令部ニ於テハ其ノ備附被服ヲ彼此増減スルコトヲ得此ノ場合ニ於 テハ事由ヲ具シ陸軍大臣ニ報告スヘシ				定員(定員ナキモノハ 現人員)ニ對スル員數	定員(定員ナキモノハ 現人員)ニ對スル員數	定員(定員ナキモノハ 現人員)ニ對スル員數	鐵防 寢具 休養室用被服 患者及看護用被服	
				數五員ノ百分ノ	九〇	二八〇	三五〇	帽 鏡 眼 塵 防 (組一枚六)布 毛 布 包 敷 (組一枚二)布 敷 團 蒲 者 患 (共 覆)枕 者 患 帳 蚊 者 患 衣 夏 者 患 (組一枚二)衣冬者患 裨 襪 夏 者 患 裨 襪 冬 者 患 帶 者 患 靴 上 套 外 者 患 袋 足 者 患 卷 襟 者 患 覆 寒 防 者 患 ト ン マ 者 患 團 蒲 綿 眞 者 患 團 蒲 敷 者 患 (共 覆)團蒲枕者患 衣 病 狂
				數ニ對スル員	一四	四〇	五〇	
					一四	四二	五三	
					四	一一	一四	

附 則

本達ハ昭和十五年九月十五日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ陸軍給與令細則第二表乃至第四表臺灣駐劄陸軍部隊給與規則細則第十表朝鮮滿洲駐劄陸軍部隊給與令細則第五表ノ改正規定中部隊ノ新設又ハ編制改正ニ係ル部分ハ當該部隊ノ新設又ハ編制改正著手ノ日以後ノ給與ニ付之ヲ適用シ陸軍給與令細則第十一表臺灣駐劄陸軍部隊給與規則細則第十一表ノ改正規定ハ本達公布ノ日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十五年陸密第二五九號第四表同年陸密第二六〇號第十表同年陸密第二六一號第五表ハ之ヲ廢止ス